

国語WGと外国語WGにおける検討状況について

令和8年6月18日
教育課程部会
外国語ワーキンググループ
参 考 資 料 2

経緯

- 論点整理において、「学習の基盤となる資質・能力」を言語能力と情報活用能力の2つに絞って整理する方向性が示されるとともに、言語能力においては現行の整理を前提としつつ、見直しが必要な部分がないか検討することが示された
- これを受け、国語WGにおいて、①子供たちが社会で活躍する2040年代を展望した言語能力の在り方及び②教科等横断的な言語能力の育成と国語科が果たす役割について検討

これまでの検討状況

- ①については、AIによる大量の言語生成が可能となり、それをSNS等で容易に発信可能な時代だからこそ、自らの意思や考えの形成・表現や、他者の経験・感情の理解といった人間ならではの言語能力を重視し、各教科等を通じて育成すべき言語能力の「軸」となる考え方を一層明確化。内容を正確に理解するとともに、発信者の経験・感情・意図を掴みながら、自己の考えを豊かに形成する「受信」と、相手にどう受け取られるかを想像しつつ、自己の考えが伝わるよう工夫しながら豊かに表現する「発信」の往還と整理 (P2)

- ②については、教育課程全体を通じた言語能力育成の一層の推進のため、国語科と各教科等での言語能力育成の役割分担について整理

(P3～4)

- 総則・評価特別部会では、学習の基盤となる資質・能力の一つである「言語能力」に関し、人間ならではの思考やコミュニケーション等を生み出す基盤となるものと整理されるとともに、「知識・技能及び思考力・判断力・表現力等の一体的育成」等の実現に向けた思考・判断・表現の過程では、言語により「外化※」し、自分なりの意味を構築していくことが不可欠と示されたところ

※外化：書く・話すなどの活動を通じ、知識の理解や頭の中で思考したことなどを表現すること

(P5～6)

国語WGと外国語WGにおける検討の方向性

- 両教科等において、
 - ・ 目標、見方・考え方、「総合的な発揮」「統合的な理解」において、「受信」と「発信」をバランスよく盛り込む
 - ・ 総合的な発揮においては、相手や状況、目的等に応じて受信・発信し、表現等を工夫する点を、統合的な理解においては、言葉を使うこと等により理解や表現等の質が高まることを理解する点を明記 (P7)

- 外国語では、AI時代に外国語を必修とする「本質的意義」について、外国語と対比されることにより、母語の特徴や良さの認知に繋がり、母語や自国の文化のメタ認知を促す等、言葉、文化、コミュニケーションへの深い理解を育むこと等と再整理するとともに、メタ認知を促すために、日本語と外国語の違い等について理解することに関する内容を充実 (P8～11)

- 国語では、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の3領域をバランスよく学ぶ選択科目「現代の国語Ⅱ（仮称）」を新設するとともに、現行の「国語表現」の発展的な内容を再整理し、「話すこと・聞くこと」「書くこと」の領域を学ぶ選択科目「対話と表現（仮称）」を新設。
外国語では、従来の「論理・表現」（選択科目）をコミュニケーションを中核に「話すこと」及び「書くこと」による「外化」を中心とした発信力の強化を図る趣旨であることを示すため、「英語コミュニケーション（発信）（仮称）」に変更 (P12～15) 1

教育課程全体で育む「言語能力」が働くイメージ

- AIによる大量の言語生成が可能となり、それをSNS等で容易に発信可能な時代だからこそ、自らの意思や考えの形成・表現や、他者の経験・感情の理解といった人間ならではの言語能力を重視する。

受信

内容を正確に理解するとともに、発信者の経験・感情・意図を掴みながら、自己の考えを豊かに形成

構造と内容の理解・解釈

➤ 言語情報の正確な把握
理解のための方略を工夫しながら、受け取った言語情報の構造や内容を正確に把握

各教科等の特質に応じた指導例：

- 教科書や資料のどこを読めば必要な情報を得られるのかなど各教科固有の文章の読み方を理解させる
- 重要な語句に線を引いたりメモしたり、理解できないときに前に戻って読み直したり質問したり、要点を図式化するなど理解を助ける方略を適用できるようにする

➤ 自分なりの意味の理解・解釈
正確な把握と同時に、既有の知識と結びつけたり多様な視点から検討したりしながら、自己にとっての深い意味理解・解釈の形成

各教科等の特質に応じた指導例：

- 黒板をただ写し取るのではなく自分の知っていることや考えたこと他の人の考えなども関連付けて書き加えるなどしてまとめるようにする
- 学習の要点として理解したことに加えて、一般化して言えそうなこと、具体的な事例、より詳しく知りたいことなどを説明させる

考えの形成

➤ 発信者の経験・感情等を踏まえた考えの形成
発信者の経験・感情・思考・意図を推察したり、それらを踏まえ自らの意思をもち考えを形成するなど、自他の経験や感情、意思と結びつける

各教科等の特質に応じた指導例：

- 他者の発言等の要点を理解した上で、発言の背景となる考えや経験、感情について推察できるようにする
- 理解・解釈した内容について、自分はどう思うか、どうしたいかを理由とともに明確にし、相互に交流することを通して自分の考えを補強したり見直したりできるようにする

表現・推敲

➤ 表現の過程での柔軟な調整
表現した後や表現の過程においても、他者の受け取りを推察しながら、表現の内容や方法を柔軟に調整し、必要に応じて修正する

各教科等の特質に応じた指導例：

- メモをそのまま読むのではなく、相手の反応を見ながら言葉を選び直したり、非言語的手段を駆使したり、意図が十分に伝わっていないようなら表現した内容でも修正して話せるようにする
- 一度書き上げた文章を読み手の立場から読み直したり、互いに読み合ったりして、目的・場面・相手に応じた表現になるように修正できるようにする

➤ 表現の前の省察や吟味
表現しようとする内容や構成・表現形式が、真に表現の目的を達成するか、意図しない結果を招かないか等の視点から省察し、表現を吟味する

各教科等の特質に応じた指導例：

- 表現を構想した後すぐに発表・記述等をするのではなく、表現の受け取り等を想定させ、省察・吟味できるようにする
- 表現しようとする内容や構成・表現形式を相互に参照し、受け取り方や改善の余地などについて検討させる

考えの形成

➤ 目的・場面・相手を踏まえた内容・構成の検討
自らの意思をもち考えを形成するとともに、形成した自らの考えや意図が目的に沿ったものか、相手に正確に伝わるかなどの視点から内容や構成、表現形式を検討

各教科等の特質に応じた指導例：

- 作品製作、レポート、発表などの多様な表現活動の中で、自分の考えや意図が目的や条件などを十分に踏まえているかを検討させる
- 目的や場面、相手に応じて言語情報を補足するのに効果的なメディアを選択し活用できるようにする

相手にどう受け取られるかを想像しつつ、自己の考えが伝わるよう工夫しながら豊かに表現

発信

教科等横断的な言語能力の育成と国語科が果たす役割について

令和7年11月28日
第3回国語WG
資料1(P.21)

✓ 総則において、言語能力の育成のために各学校で取り組むべきことを三つの柱で整理している。

(略) 言語能力の育成を図るため、各学校において必要な言語環境を整えとともに、国語科を要しつつ各教科等の特質に応じて、生徒の言語活動を充実すること。あわせて、(7)に示すとおり読書活動を充実すること。【中学校学習指導要領(総則)より抜粋】

【柱①】言語環境の整備

- ・時代の変化を踏まえて、学習指導要領解説総則編における示す内容の充実
(充実が必要な内容案)
- ・デジタル学習基盤に対応した内容や多様性の包摂を担保した内容

※柱①～③の内容については、現行学習指導要領を踏まえ今後の方向性として作成

【柱②】国語科を要しつつ各教科等の特質に応じて、言語能力を高めるための学習活動の充実

- ・言語能力を育成するとともに、各教科等の指導を通して育成を目指す資質・能力を身に付けるために充実を図るべき学習活動は、今後も一層充実

【柱③】読書活動の充実

- ・各教科等において、学校図書館の機能を計画的に利活用し、生徒の自主的・自発的な学習活動や読書活動を充実

※国語科での読書活動については、〔知識及び技能〕の「読書」の事項に関連して、今後のWGで検討予定

言語能力の育成のために各学校で取り組むべき三つの柱を分かりやすく示してはどうか

言語環境・学習活動・読書活動

上記三つの柱を踏まえ、言語能力の育成において国語科が果たすべき役割を分かりやすく示してはどうか

学習活動

改善方策①

- 三つの柱の関係を分かりやすく示すことで、言語能力育成の実効性を高め、言語能力の育成を一層推進
- 各教科における「教科書等を読み解く力」の確実な育成に向けては、育まれる各教科固有の言語能力に加え、各教科固有の用語や概念の理解などとの相乗効果を図ることが重要

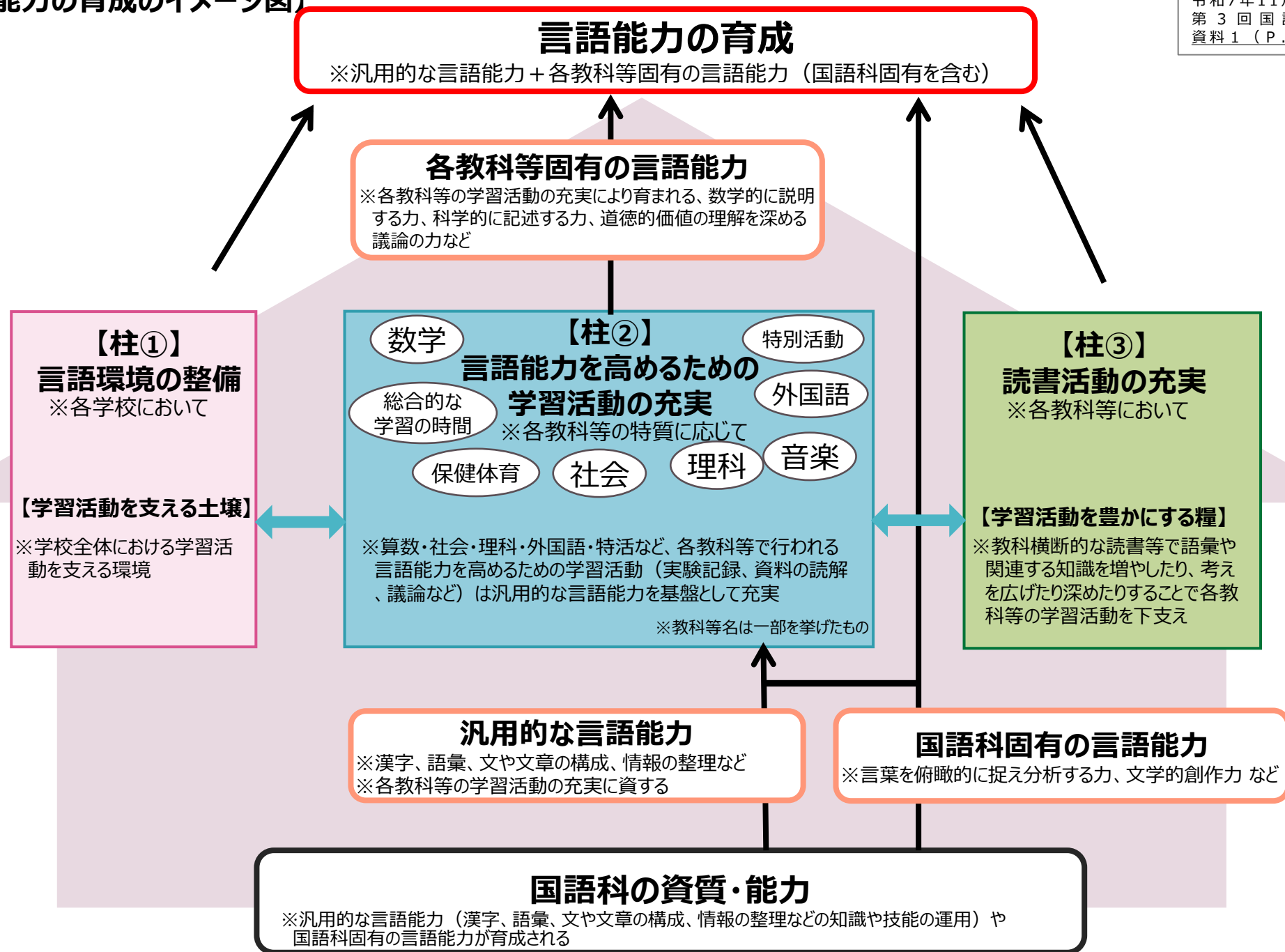
※「教科書等を読み解く力」の育成には、各教科固有の専門的な用語や教科書の構造等の理解、既存の知識等も重要であることに留意

※外国籍・特別な支援を要するなど、多様な背景をもつ児童生徒が学びやすいよう学校全体で配慮・支援する視点を重視

改善方策②

- 国語科の学びと各教科等の学習活動の充実との関係を整理することにより、各教科等における言語能力を高めるための学習活動の充実を一層促進するとともに、言語能力を確実に育成

※中等教育では、学習する内容が高度化・抽象化し、各教科等固有の見方・考え方や語彙、表現方法・様式等を用いた思考・判断・表現が不可欠となることから、各教科等の内容と関連付けた指導が一層重要になると考えられる。(数と式による証明、音楽や美術の専門的な用語を用いた鑑賞、理科での専門的な実験の記録や報告、道徳的価値の理解を深める議論など)



(2) 言語能力と情報活用能力との関係性について (補足イメージ①)

- (1) で述べた情報活用能力・言語能力それぞれの資質・能力の全体像については、参考資料②及び③の方向性で各WGで議論が行われているが、現行指導要領の下でも「言語能力だけ」「情報活用能力だけ」に力をいれて研究に取り組む学校が見られるなど、「学習の基盤となる資質・能力」としての一体的理解が進んでいない実態も見られる。
- 言語能力と情報活用能力は、相補的に働くことで効果的に育成・発揮できるものと捉えることができ、その関係性を以下の通り整理することで、学校現場にとって趣旨が伝わりやすく、取り組みやすいものになるのではないか。

【言語能力】

- 言語による情報は、字面が同じであれば誰にでも同じように受信・発信されるわけではなく、人間による認知の過程で初めて意味が形成されるものであり、それを利用して言語による情報の背景にある人間の経験や感情も伝えられる一方、誤解して受け止められることもある。
- このような基本的な認識に立てば、言語能力は、言語を介して「他者」を理解し、知識を得つつ「自分」の考えを形成・表現する能力であり、人間ならではの思考やコミュニケーション等を生み出す基盤となるもの。自他の諸感覚を通じた経験（身体性）に根ざした、意見の形成や対話・合意のために不可欠な資質・能力ともいえる。
- 今後、個別の資質・能力レベルでは生成AIによる代替も可能になることも想定されるからこそ、「知識及び技能に関する統合的な理解」「思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮」「知識・技能及び思考力・判断力・表現力等の一体的育成」が重要となるが、それらの実現に向けた学習の過程では言語により「外化」(注) し、自分なりの意味を構築していくことが不可欠。 (参考資料④)

- ※ 今次改訂で進める単元のまとまりごとの授業づくりを助け、「深い学び」の実現に繋げるためにも、言語能力の発揮による「外化」が鍵を握る。

(注) 書く・話すなどの活動を通じ、知識の理解や頭の中で思考したことなどを表現すること

【情報活用能力との関係】

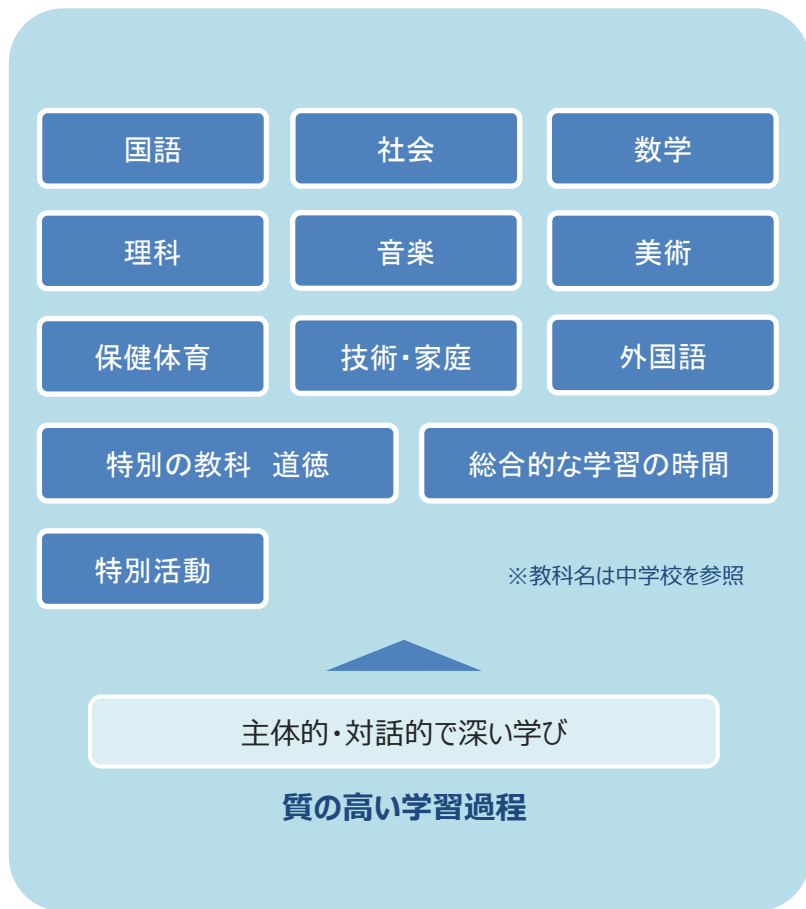
- 言語能力の基礎の上に情報技術を活用すれば、言語と言語以外の情報を組み合わせたり、情報を効果的・効率的に再構築したり、自らの身体では難しい創作などを行ったり、情報を地理的・時間的制約を超えて広く発信したりするなど、人間の思考やコミュニケーション、身体活動等を強化・拡張し、探究的な学びや課題解決に繋げていくことが可能。
- 一方で、情報技術の活用が「外化」をはじめとする言語能力の発揮を促す活動を欠いて行われた場合、身体性に根ざした人間ならではの価値の創造や意味理解を欠いた、空疎な情報の集積・共有となる恐れもある（例：言語による外化なしに生成AIが生成したものをそのまま使うなど）
- ※ 思考・判断・表現の過程で、言語能力を発揮するに当たっても、情報技術を活用して思考やコミュニケーション、身体活動等を強化・拡張することで、より質の高い「外化」が可能となる。
- ※ こうした空疎な情報の集積・共有が、誤情報の拡散やそれによる誤った認識の拡大といった負の側面の顕在化を招いている
- 以上のような言語能力と情報活用能力のそれぞれの特質や相補的な性質を踏まえながら、いずれも学習の基盤として着実な育成を図ることの重要性を示す事としてはどうか。

「学習の基盤となる資質・能力」の相互の関係等について

補足イメージ①

各教科等において育む資質・能力

元となる学問体系等を踏まえて系統的に内容が組織・配列されていることで、学習内容の体系的な習得を図るとともに、学習内容を相互に結びつけて理解しやすくなるなど、資質・能力の深まりを効果的に実現する。



各教科等の
内容を通じて
育成を図る



日々の学習や
生涯にわたる
学びを基盤とし
て支える

学習の基盤となる資質・能力

個々の教科等に収まらず、日々の学習や生涯にわたる学びを基盤として支える資質・能力は、各教科等の内容を通じて育成を図ることとなる一方、育成する資質・能力の全体像を教科等を超えて整理することで、各学校でのカリキュラム・マネジメントを通じた教育課程全体での体系的な育成を担保する。

言語能力

言語による情報を理解してそれを基に思考し、文章や発話により表現するための力

→言語を介して「他者」を理解し、知識を得つつ「自分」の考えを形成・表現する根幹であり、人間ならではの思考やコミュニケーション等を生み出す基礎となるもの。思考・判断・表現の過程で、自らの諸感覚を通じた経験（身体性）に根差した言語による「外化」を行うことが、生成AI時代にこそ不可欠な「深い学び」の鍵を握る。

思考やコミュニケーション等の強化・拡張

相補的に働く

思考やコミュニケーション等の基礎

情報活用能力

情報技術を適切かつ効果的に活用し、問題を発見・解決したり自分の考えを形成したりしていく力

→情報技術を活用して、言語と言語以外の情報を効果的に組み合わせたり、情報を再構築したり、自らの身体では難しい創作などを行ったり、情報を地理的制約を超えて広く発信するなど、人間の思考やコミュニケーション、身体活動等を強化・拡張し、探究的な学びや課題解決に繋げていくもの。より質の高い、効率的な「外化」を可能とする。

国語と外国語の目標、見方・考え方、「統合的な理解」・「総合的な発揮」について

※中学校の例

国語

国語で理解し、考え、表現する資質・能力について、話すこと・聞くこと、書くこと、読むことを通して、次のとおり育成することを目指す。

知識及び技能

社会生活に必要な国語の特質を理解し適切に使うとともに、我が国の言語文化に親しみながら理解できるようにする。

思考力、判断力、表現力等

国語で論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を養い、社会生活における他者との関わりの中で、互いの立場や考えを尊重しながら伝え合う力を高める。

学びに向かう力、人間性等

①考えたり感じたりしたことを自ら進んで表現し、伝え合う過程を確かめながら、学びの質を高めようとする態度を養う。
②言語感覚を豊かにし、我が国の言語文化に関わり、国語を尊重する態度を養う。

自分や他者の言葉を、意味や働き、使い方や表現の意図に着目して多面的・多角的に吟味し、多様な立場や考えを理解して、丁寧に言葉を選び、よりよく伝え合うこと

総合的な発揮

話すこと・聞くこと

相手や状況、目的に応じて、話し方・聞き方を工夫することにより、考えや思いをよりよく伝えるとき、他者とのやり取りを通じて自分の考えを捉え直し、広げ深めることができる。

書くこと

相手や状況、目的に応じて、文章の書き方を工夫することにより、考えや思いをよりよく伝えることができる。

読むこと

状況や目的に応じて、文章の読み方を工夫することにより、理解や解釈したことを踏まえて自分の考えを広げ深めることができる。

統合的な理解

①各領域の学習の過程で生かし深める側面

話すこと・聞くこと

社会生活に必要な言葉の様々な意味や働き、使い方等を身に付け、相手や状況、目的に応じて使うことにより、理解や思考、表現の質が高まることを理解している。

書くこと

※話すこと・聞くことと同様

読むこと

社会生活に必要な言葉の様々な意味や働き、使い方等を身に付け、状況や目的に応じて使うことにより、理解や思考、表現の質が高まることを理解している。

②各領域の学習を支える文化的な知識や態度、教養として深める側面

幅広く多様な言葉に触れ蓄えながら我が国の言語文化のもつ意義や価値を捉えることが、自己の形成、社会生活の向上、文化の創造と継承につながることを理解している。

目標

見方・考え方

「統合的な理解」 「総合的な発揮」

外国語

外国語によるコミュニケーションを図る資質・能力を、コミュニケーション活動及びコミュニケーション活動を支える活動などを通して、次のとおり育成することを目指す。

知識及び技能

外国語の特徴やきまりを理解するとともに、これらの知識を、実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けるようにする。

思考力、判断力、表現力等

コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、様々な話題について、外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。

学びに向かう力、人間性等

外国語によるコミュニケーションなどに興味・関心を持ち、他者との対話・協働を通して考えを広げたり深めたりするとともに、自らの学習を調整して、他者との相互理解を深めようとする態度を養う。

※英語の目標は紙面上省略している

外国語及び外国語によるコミュニケーションを文化の違いや社会及び相手との関わりに着目して捉え、多様な他者の考えを受け止めるとともに、表現等を工夫して自らの考えを伝え、相互理解を図ること

総合的な発揮

コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、様々な話題について、
・情報や考えなどを捉え、整理したり、既存の知識などと関連付けたりすることができる。
【理解する】
・情報や自分の考えなどを整理し、表現等を工夫して伝えることができる。【表現する】
・相手の考えなどを受け止めながら、情報や自分の考えなどを整理し、表現等を工夫して伝え合うことができる。【伝え合う】

統合的な理解

英語の特徴やきまりに関する知識を、コミュニケーションの中で組み合わせて使うことにより、英語による理解や表現の質が高まることを理解している。

AI時代に外国語を必修とする「本質的意義」の再整理 (Ver. 4)

令和8年6月18日
第13回外国語WG
資料 (P. 11)

－ 自らの人生を舵取りできる、多様な他者と協働できる資質・能力への貢献の観点から －

1. 言葉、文化、コミュニケーションへの深い理解を育むこと

● 異なる言語・文化への理解を促す

- 自らと異なる他者の言語や文化等との接触・理解・共感・受容
- 言語習得の困難の経験による外国人や日本語学習者の立場・心情の理解
- ➡ 以上が相まって、多様な主張や価値観への寛容性を生み、多様性の包摂や多文化共生に対する理解を促す可能性

● 母語や自国の文化のメタ認知を促す

- 外国語と対比されることにより、母語の特徴や良さの認知に繋がる
- 外国の文化と対比されることにより、自国の文化への理解が深まる
- 外国人に伝えるため、自国の歴史・文化を学ぶ動機付けが促される

● コミュニケーションへの深い理解を促す

- 言語や文化のメタ認知やコミュニケーション等の経験を通じた相手意識の向上
 - ・相手の言葉や意図の受け止め方（聞く・読む）
 - ・相手や相手の文化への配慮、コミュニケーションの目的、場面や状況等に応じた表現、自分の言葉の分かりやすさ（「やさしい日本語」にも繋がる）（話す・書く）
- 伝わらないもどかしさや失敗を乗り越えるレジリエンスや伝わることによる自己肯定感等の高まり、それらを行き来する経験
- ノンバーバル・コミュニケーションの重要性の理解や表現方法の工夫（アイコンタクト、間の取り方、身振り・手振り等）
- ➡ 以上が相まって、翻訳ツール等によるやり取りを超えた、生身の身体を有する人間同士のリアルなコミュニケーションへの関心・意欲を促す可能性

2. 自分の考えが磨かれて思考が深まり、人間関係が豊かになること

● 外国語を介して、自分の考え・意見の形成・整理が促進される

- 外国語を通じて流通する多様な主張や価値観、感性への接触・受容
- 外国語で対話・協働するために、普段から自分の考え・意見を整理したり、外国語ならではの論理展開で伝える意識が向上する
- 外国人に伝えるため、自国の歴史・文化を学ぶ動機付けが促される（再掲）
- ➡ アウトプットを意識した効果的インプットや論理的思考力の伸長を促す可能性

● 人間関係の質・量が豊かになり、多面的視野に繋がる

- 世界中の様々な人々と直接つながり、信頼関係の構築が可能となる
- 人間同士のリアルなコミュニケーションにより、翻訳やAIを介する場合と比べて得られる情報が格段に広がり、多面的視野に繋がる
- 異なる言語でのコミュニケーションを通じて新たな自分を発見できたり、より広い視野から自分の好き・得意を考えたり、複言語・複文化の強みを生かして将来の選択肢が広がる可能性も

※現在のAI技術を前提とした場合ではあるが、AIにより手軽に翻訳・通訳が可能となる中であっても、出力の正確性・適切性を批判的に検討したり、ツールの力も使いつつも、リアルなコミュニケーションを行ったりするためには相応の英語力が必要という視点や、外国語によるコミュニケーションのためにAI技術を効果的に活用する力が必要という視点もある

※これらは外国語を学校教育で必修とすることの意義を卒業後も継続的に学習した場合も想定しながら整理したものであり、これらの全てが、全ての児童生徒において、初等中等教育の過程で高いレベルで発現すると考えているものではない

※AI技術が今後も予想を超える速さで進歩することを踏まえると、AIに代替されるべきではない、人間に残したい部分は何かを重視する必要（下線部分）

よりよい社会
(社会のウェルビーイング)

- 多様性の包摂、国内外の多様な他者との共生・共創
- グローバルな視点・情報を駆使した価値創造・課題解決
- 持続可能な民主主義・平和な社会の構築

幸福な人生
(個人のウェルビーイング)

- 思考の多様性・柔軟性、価値観の再構築
- 国内外の多様な他者と直に意思疎通できる安心感・自信、豊かな人間関係
- 言葉の壁や国境を越えて自らの人生を舵取り（進学・留学・就職）

※本資料はあくまで盛り込むべき要素のイメージを示したものであり、実際の学習指導要領本文及び解説の文章は議論を踏まえて引き続き検討
※赤字が新たに盛り込む要素（「指導計画の作成と内容の取扱い」は現行の記載を基にしている）

小学校（外国語活動）

小学校（外国語）

第 4 章 外国語

第 1 目標

外国語を通して、言語や文化について体験的に理解を深め、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しむようにする。（知識及び技能）

（見方・考え方）

外国語及び外国語によるコミュニケーションを文化の違いや社会及び相手との関わりに着目して捉え、多様な他者の考えを受け止めるとともに、表現等を工夫して自らの考えを伝え、相互理解を図ること

第 2 各言語の目標及び内容等 英語

2 内容

知識及び技能

（統合的な理解）音声や基本的な表現に慣れ親しむことで、日本語と外国語の音声の違い等に気付くとともに、言語や文化の違いや共通点を体験的に理解している。

英語の特徴等に関する事項

ア 音声 英語の音声やリズムなどに慣れ親しむとともに、日本語との違いに気付く

文化に関する事項

- ・日本と外国との生活や習慣、行事などの違いを知り、多様な考え方があることに気付く
- ・異なる文化を持つ人々との交流などを体験し、文化等に関する理解を深める

3 指導計画の作成と内容の取扱い

(1)（指導計画の作成）

オ 外国語活動を通して、外国語や外国の文化のみならず、国語や我が国の文化についても併せて理解を深めるようにすること。言語活動で扱う題材についても、我が国の文化や、英語の背景にある世界の文化に対する関心を高め、理解を深めようとする態度を養うのに役立つものとする。

第 2 章 第 10 節 外国語

第 1（見方・考え方）

外国語及び外国語によるコミュニケーションを文化の違いや社会及び相手との関わりに着目して捉え、多様な他者の考えを受け止めるとともに、表現等を工夫して自らの考えを伝え、相互理解を図ること

第 2 各言語の目標及び内容等 英語

2 内容

知識及び技能

英語の特徴等に関する事項

エ 文及び文構造

日本語と英語の語順の違い等に気付くとともに、意味や使い方を理解して、活用できる。

3 指導計画の作成と内容の取扱い

（3）（教材に関する留意事項）

イ 英語を使用している人々を中心とする世界の人々や日本人の日常生活、風俗習慣、物語、地理、歴史、伝統文化、自然などに関するものの中から、児童の発達の段階や興味・関心に即して適切な題材を変化をもたせて取り上げるものとし、次の観点に配慮すること。

- （ア）我が国の文化や、英語の背景にある世界の多様な文化に対する関心を高め、理解を深めようとする態度を養うことに役立つこと。
- （イ）言語や文化の違いや共通点、多様なものの見方や考え方があることを理解することにより、多様性の包摂や他者との相互理解を図ろうとする態度を養うのに役立つこと。多様な考え方に対する理解を深めさせ、公正な判断力を養い豊かな心情を育てることに役立つこと。
- （ウ）広い視野から国際理解を深め、国際社会と向き合うことが求められている我が国の一員としての自覚を高めるとともに、国際協調の精神を養うとともに、多文化共生に対する理解を促すことに役立つこと。

※本資料はあくまで盛り込むべき要素のイメージを示したものであり、実際の学習指導要領本文及び解説の文章は議論を踏まえて引き続き検討
※赤字が新たに盛り込む要素（「指導計画の作成と内容の取扱い」は現行の記載を基にしている）

中学校

第2章 第9節 外国語

第1（見方・考え方）

外国語及び外国語によるコミュニケーションを文化の違いや社会及び相手との関わりに着目して捉え、多様な他者の考えを受け止めるとともに、表現等を工夫して自らの考えを伝え、相互理解を図ること

第2 各言語の目標及び内容等 英語

3 指導計画の作成と内容の取扱い

(2)（内容の取扱い）

イ 音声指導に当たっては、日本語との違いに留意しながら、練習コミュニケーション活動を支える活動などを通して2の（1）のAに示す言語材料を継続して指導するとともに、音声指導の補助として、必要に応じて発音表記を用いて指導することもできることに留意すること。また、発音と綴りとを関連付けて指導すること。

エ 文法事項の指導に当たっては、次の事項に留意すること。

（ウ）用語や用法の区別などの指導が中心とならないよう配慮し、実際に活用できるようにするとともに、語順や修飾関係などにおける日本語との違いに留意して指導すること。

オ コミュニケーション活動及びコミュニケーションを支える活動の中で、日本語と英語の音声や語彙、文構造、文法などの違いに気付かせることに留意しながら指導すること。

カ 多様な他者との相互理解を図るためには相手の文化的背景などに配慮したコミュニケーションが重要であることの理解を深めるとともに、活動においては相手に配慮してコミュニケーションを行えるよう工夫すること。

(3)（教材に関する留意事項）

イ 英語を使用している人々を中心とする世界の人々や日本人の日常生活、風俗習慣、物語、地理、歴史、伝統文化、自然科学などに関するものの中から、生徒の発達の段階や興味・関心に即して適切な題材を効果的に取り上げるものとし、次の観点に配慮すること。

（ア）我が国の文化や、英語の背景にある世界の多様な文化に対する関心を高め、理解を深めようとする態度を養うのに役立つこと。

（イ）言語や文化の違いや共通点、多様なものの見方や考え方があることを理解することにより、多様性の包摂や多様な他者との相互理解を深めようとする態度を養うのに役立つこと。多様な考え方に対する理解を深めさせ、公正な判断力を養い豊かな心情を育てるのに役立つこと。

（ウ）広い視野から国際理解を深め、国際社会と向き合うことが求められている我が国の一員としての自覚を高めるとともに、国際協調の精神を養うとともに、多文化共生に対する理解を促すのに役立つこと。

高等学校

第2章 第8節 外国語

第1款（見方・考え方）

外国語及び外国語によるコミュニケーションを文化の違いや社会及び相手との関わりに着目して捉え、多様な他者の考えを受け止めるとともに、表現等を工夫して自らの考えを伝え、相互理解を図ること

第2款 各科目

第3款 各科目にわたる指導計画の作成と内容の取扱い

1（指導計画の作成）

（7）言語能力の向上を図る観点から、言語活動などにおいて国語科と連携を図り、指導の効果を高めるとともに、日本語と英語の語彙や表現、論理の展開などの違いや共通点に気付かせ、その背景にある歴史や文化、習慣などに対する理解が深められるよう工夫すること。

2（内容の取扱い）

（7）コミュニケーション活動及びコミュニケーションを支える活動の中で、日本語と英語の音声や語彙、文構造、文法、論理の展開などの違いに気付かせることに留意しながら指導すること。

（8）多様な他者との相互理解を図るためには相手の文化的背景などに配慮したコミュニケーションが重要であることの理解を深めるとともに、活動においては相手に配慮してコミュニケーションを行うよう工夫すること。

3（教材に関する留意事項）

（2）英語を使用している人々を中心とする世界の人々や日本人の日常生活、風俗習慣、物語、地理、歴史、伝統文化、自然科学などに関するものの中から、生徒の発達の段階や興味・関心に即して適切な題材を効果的に取り上げるものとし、次の観点に配慮すること。

（ア）我が国の文化や、英語の背景にある世界の多様な文化に対する関心を高め、理解を深めようとする態度を養うのに役立つこと。

（イ）言語や文化の違いや共通点、多様なものの見方や考え方があることを理解することにより、複眼的に社会や世界を見る力や多様性の包摂、多様な他者との相互理解を深めようとする態度を養うのに役立つこと。多様な考え方に対する理解を深めさせ、公正な判断力を養い豊かな心情を育てるのに役立つこと。

（ウ）社会がグローバル化の中で、広い視野から国際理解を深め、国際社会と向き合うことが求められている我が国の一員としての自覚を高めるとともに、国際協調の精神を養うとともに、多文化共生に対する理解を促すのに役立つこと。

（エ）人間、社会、自然などについての考えを深めるのに役立つこと。

外国語の「見方・考え方」

高等学校

言葉、文化、コミュニケーションへの深い理解を育む

- 異なる言語・文化への理解を促す
- 母語や自国の文化のメタ認知を促す
- コミュニケーションへの深い理解を促す

言語習得：外国語によるコミュニケーションにおいて、相手の文化的背景などを踏まえて配慮ができる

相互理解：言語や文化の違いや共通点、多様なものの見方や考え方があることを理解することにより、多様な他者との相互理解を深めようとする

(参考：現行の解説)

- 相手の外国語の文化的背景によって「配慮」の仕方も異なってくることを理解できる
- 他者を配慮し受け入れる寛容の精神や平和・国際貢献などの精神を獲得し、多面的思考ができるような人材を育てる
- 我が国の文化と、英語の背景にある文化との共通点や相違点を知ることとともに、そうしたことに関心をもち、理解を深めようとする態度を育成する
- 世界の中の日本人であることの自覚を高めるとともに、国際協調の精神を養うように配慮する

中学校

言語習得：外国語によるコミュニケーションにおいて、相手の文化的背景などを踏まえた配慮を図ろうとする

相互理解：言語や文化の違いや共通点、多様なものの見方や考え方があることを理解することにより、多様な他者との相互理解を深めようとする

(参考：現行の解説)

- 相手の外国語の文化的背景によって「配慮」の仕方も異なってくることを理解できる
- 他者を配慮し受け入れる寛容の精神や平和・国際貢献などの精神を獲得し、多面的思考ができるような人材を育てる
- 我が国の文化と、英語の背景にある文化との共通点や相違点を知ることとともに、そうしたことに関心をもち、理解を深めようとする態度を育成する
- 世界の中の日本人であることの自覚を高めるとともに、国際協調の精神を養うように配慮する

小学校・外国語

言語習得：外国語によるコミュニケーションにおいて、日本語と英語の違いに気付き、外国語の言語文化に慣れ親しむ

相互理解：我が国の文化や、世界の多様な文化に対する関心を高め、理解を深めようとする

(参考：現行の解説)

- 日本語との音声の違いにとどまらず、文字、語彙、表現、文構造、言語の働きなどについても日本語との違いに気付く
- 気付きで終わるのではなく、それらが外国語でコミュニケーションを図る際に活用される、生きて働く知識として理解される
- 多様な考え方を理解し、柔軟に対応することや、公正な判断力を養い、相手の状況や立場を共感的に理解できる心情を育成する
- 我が国の文化と、英語の背景にある文化との共通点や相違点を知ることとともに、そうしたことに関心をもち、理解を深めようとする態度やお互いの文化を尊重する態度を育成する
- 複数の文化に触れることが、(略) 英語によるコミュニケーションの中で我が国の文化を発信することにもつながっていく日本の文化や価値観、考え方などについての自覚を高める

小学校・外国語活動

言語や文化の違いや共通点を体験的に理解し、外国語や外国語によるコミュニケーションに慣れ親しむ

(参考：現行の解説)

- 外国語と日本語との違いを知り、言葉の面白さや豊かさに気付く
- 日本と外国との生活や習慣、行事などの違いを知り、多様な考え方があることに気付く
- 異なる文化をもつ人々との交流などを体験し、文化等に対する理解を深める
- 母語と外国語を比べることで、言語には普遍性と固有性があることに気付く
- 母語の性質や価値、外国語の性質や価値をよりよく理解できるようになる

※科目名は全て仮称

(1) 必修科目

現代の国語Ⅰ(2単位)

実社会に必要な国語の知識・技能を身に付けて適切に使えるようにするとともに論理的に考える力や他者との関わりの中で伝え合う力を育成する。

※現行の必修科目「現代の国語」の枠組みを維持。

言語文化Ⅰ(2単位)

古典や近現代の文章を通して我が国の言語文化に対する幅広い知識や教養を身に付け、多様な他者の感性や情緒を理解し、豊かに想像したり表現したりする力を育成する。

※現行の必修科目「言語文化」の枠組みを維持。

(2) 選択科目

現代の国語Ⅱ(4単位)

標準

- ・ 現行の「論理国語」「国語表現」の標準的な内容を組み合わせ、「現代の国語」の内容を深化させて学ぶ科目。
- ・ 「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の3領域の資質・能力を「事実や知識の整理と理解」「考えや主張の理由付けと吟味」の「話や文章の機能（仮称）」に応じて働かせ、論理的に思考することや他者との対話を通して、主として、実社会で必要とされる国語による諸活動に必要な力を育成する。

言語文化Ⅱ(4単位)

標準

- ・ 現行の「文学国語」「古典探究」の標準的な内容を組み合わせ、「言語文化」の内容を深化させて学ぶ科目。
- ・ 「書くこと」「読むこと」の2領域の資質・能力を「思いや経験の表出と想像」「伝統的な言語文化の継承と創造」の「話や文章の機能（仮称）」に応じて働かせ、作品を多様な考えや価値観を踏まえて解釈したり、時代を超えた連続性の中で我が国の言語文化への理解を深めたりすることを通して、主として、多様な他者の感性や情緒を理解し、豊かに想像したり表現したりする力を育成する。

論説と批評(2単位)

発展

- ・ 現行の「論理国語」の発展的な内容を再整理し、「現代の国語Ⅱ」の「書くこと」「読むこと」を発展させた内容を学ぶ科目。
- ・ 実社会や学術的な学習の基礎に関する事柄について、批判的に読んだり自らの考えを論述したりすることを通して、主として、論理的に思考し表現する力を育成する。

文学と叙述(2単位)

発展

- ・ 現行の「文学国語」の発展的な内容を再整理し、「言語文化Ⅱ」の「書くこと」「読むこと」を発展させた内容を学ぶ科目。
- ・ 文学作品などを読んでその解釈の多様性について考察したり批評したりすること、独創的な表現を工夫して想像したことや思いを伝えたりすることを通して、様々な事柄を多面的に捉え、主として、多様な他者の感性や情緒を理解し、豊かに想像したり表現したりする力を育成する。

対話と表現(2単位)

発展

- ・ 現行の「国語表現」の発展的な内容を再整理し、「現代の国語Ⅱ」の「話すこと・聞くこと」「書くこと」を発展させた内容を学ぶ科目。
- ・ 多様な他者との関わりの中で文章・口頭の双方において論理的・説得的に対話や表現をしたり、様々な媒体を通して他者との対話を重ね新たな価値を創出したりすることを通して、主として、多様な他者との多角的なコミュニケーションを図る力を高める。

古典と文化(2単位)

発展

- ・ 現行の「古典探究」の発展的な内容を再整理し、「言語文化Ⅱ」の「読むこと」を発展させた内容を学ぶ科目。
- ・ 古典を主体的に読み進めたり、我が国の伝統と文化の基盤として古典を学び、自分と自分を取り巻く社会にとっての古典の価値や意義について考えたりすることを通して、主として、多様な他者の感性や情緒を理解し、豊かに想像する力を育成する。

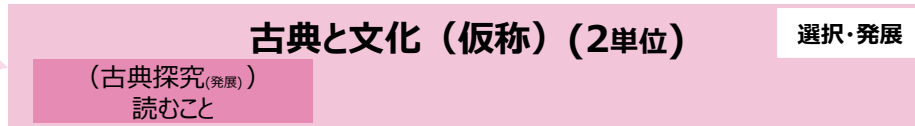
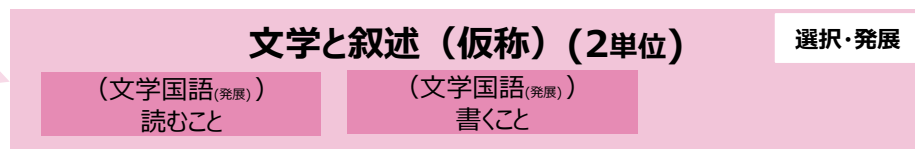
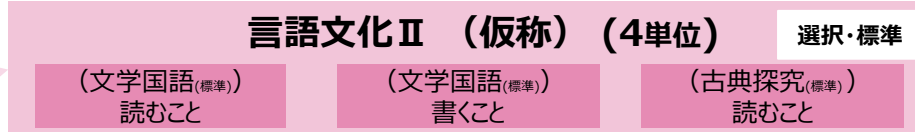
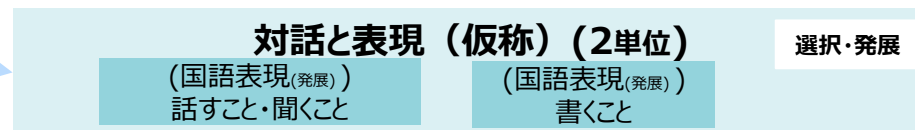
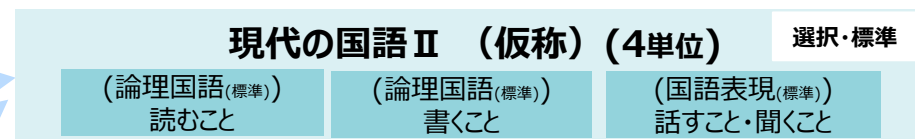
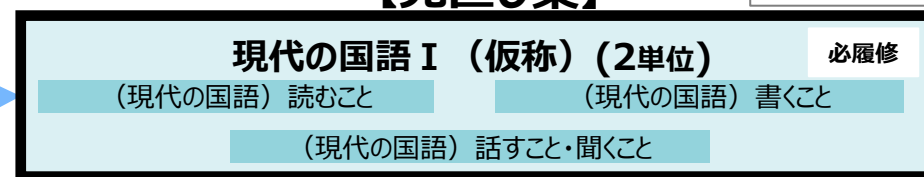
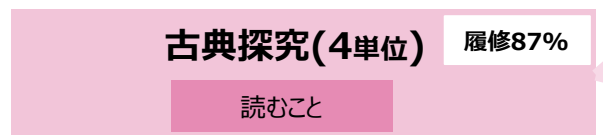
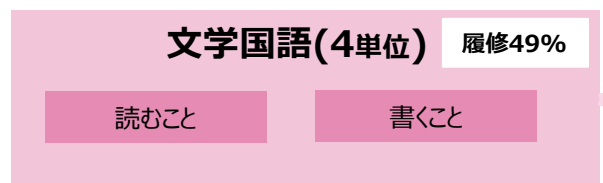
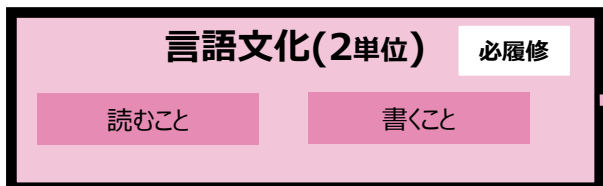
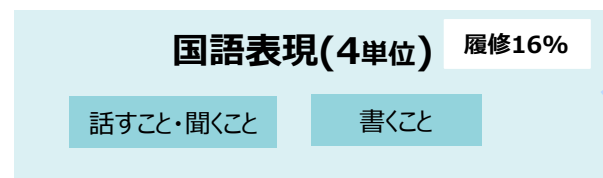
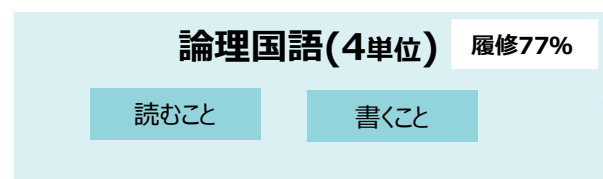
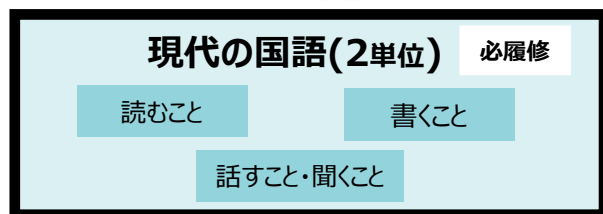
科目構成の見直しイメージ (全体像)

【現行】

【見直し案】

主に論理的思考力や
コミュニケーション能力の育成

主に多様な他者の感性や情緒
を理解し、豊かに想像したり
表現したりする力の育成



高校の外国語科目の改善イメージ①

現状

現状と課題

- 前回改訂では 5 領域を総合的に扱うことを一層重視する必履修科目として「英語コミュニケーションⅠ」(以下「英語コミュニケーション」を「英コミュ」という)を設定し、更なる総合的な英語力の向上を図るための選択科目として「英コミュⅡ」及び「英コミュⅢ」を設定
- また、「話すこと」「書くこと」を中心とした発信力の強化を図るため、特にスピーチ、プレゼンテーション、ディベート、ディスカッション、まとまりのある文章を書くことなどを扱う選択科目として「論理・表現Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」(以下「論理・表現」を「論表」という)を設定
- 世界的にも外国人留学生数が増加している中、日本の大学等においても留学生総数が過去最多となったことや、企業においても英語でのビジネスコミュニケーションを行える力が求められていることを踏まえ、引き続き高校までの英語教育には総合的な英語力の向上と発信力の強化が求められている
- 総則・評価特別部会では、学習の基盤となる資質・能力の一つである「言語能力」に関し、「知識・技能及び思考力・判断力・表現力等の一体的育成」等の実現に向けた思考・判断・表現の過程では、言語により「外化※」し、自分なりの意味を構築していくことが不可欠と示されたところ

※外化：書く・話すなどの活動を通じ、知識の理解や頭の中で思考したことなどを表現すること

改善イメージ

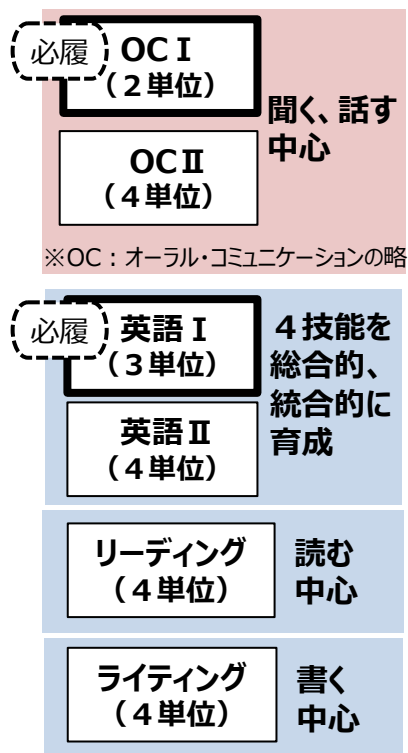
科目名の見直し

- 前回改訂で意図した総合的な英語力の向上と発信力の強化は現在も一層の推進が求められていることを踏まえ、英コミュと論表の科目の趣旨は維持する
- 英語によるコミュニケーションを中核とする科目趣旨を端的に示すため、両科目に「英語コミュニケーション」を共通して置く
※今回、「言語活動」の文言を見直し、「コミュニケーション活動」及び「コミュニケーション活動を支える活動」と整理したこととも整合する
- その上で、従来の「英語コミュニケーション」は 5 領域を総合的に扱う趣旨を示すため必履修科目として「英語コミュニケーション（総合）Ⅰ」、選択科目として「英語コミュニケーション（総合）Ⅱ・Ⅲ」とする
- 「論理・表現」は、Production（表現）と Interaction（やり取り）（「話すこと[やり取り]」、「話すこと[発表]」、「書くこと」）による発信力を一層強化するための選択科目として「英語コミュニケーション（発信）Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」とし、当該 3 領域により、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて英語で情報や考え、意見や主張などを発信するという科目趣旨を丁寧に説明するとともに、科目名の英訳においては科目趣旨が表せるように検討する
※いずれも科目名は仮称。従来の論表は「英語コミュニケーション（発信）」とすることで、「話すこと」「書くこと」による「外化」を中心として発信力を強化する趣旨であることを示す

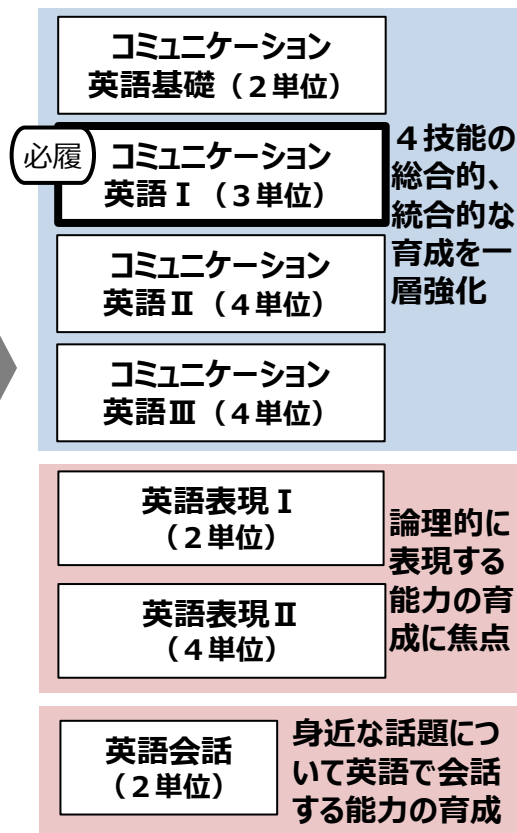
科目共通の方向性

- 新たな英コミュと新たな論表の 2 科目を併行履修する場合には、新たな英コミュで読んだり聞いたりした話題を新たな論表でも扱ったり、新たな英コミュで扱った言語材料を新たな論表でも活用したりするなど、科目間のカリマネが重要。教師の自助努力のみに委ねずに、カリマネが進むよう、使用する教材間の話題や活動の連携を促進するとともに、学習指導要領において指導上の工夫を促す（なお、科目の組み換えにより統合する場合も同様）
- 領域別あるいは領域統合の活動においては、中高接続の観点も踏まえ、「社会的な話題」に身近なものも含むようにするとともに、中学校での既習の言語材料を繰り返し活用しながら、「思・判・表」を発揮する活動を重視する

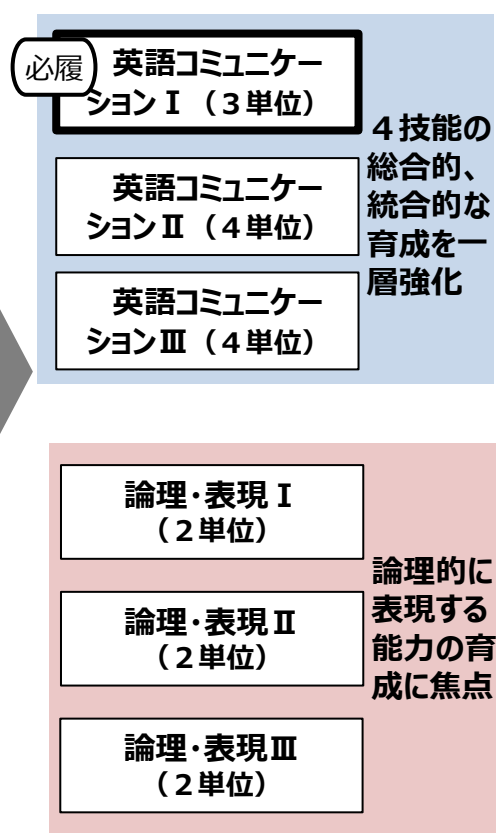
平成11年3月告示



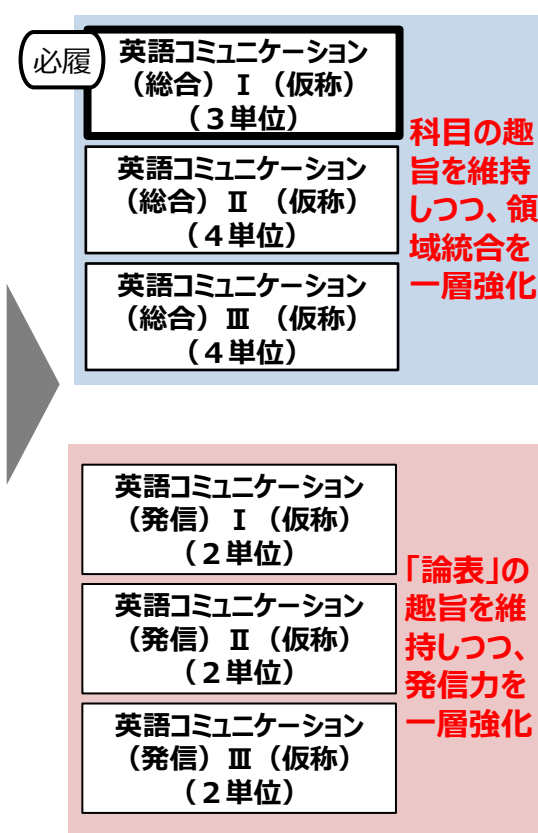
平成21年3月告示



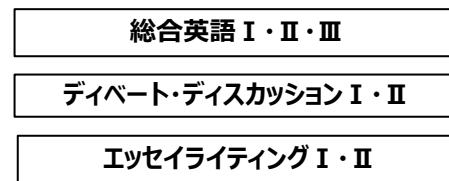
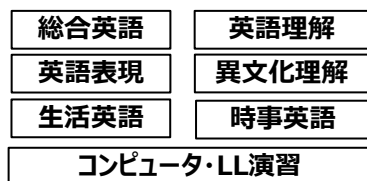
現行 (平成30年3月告示)



改訂の方向性



【専門教科 (英語)】



※上記科目の改善の方向性を踏まえ、必要な改善を行う



參考資料



(国語WG) 資質・能力の構造化等に関連する検討のポイント

1. 目標・内容の構造化等のポイントについて

- 国語科は、思考力・判断力・表現力等の系統性が明確であり、知識及び技能が全体として思考力・判断力・表現力等の深まりを助けることを明確にするため、**「並行」パターンでの表形式化を検討**
- 短文でのやりとりが中心となるSNSなどに日常的に接する中で、まとまりのある思考を深めたり表現を工夫したりする経験が不足しており、**目的や場面に応じて、自分の思いや考えに適した言葉を用いて表現することなどに課題**。「何のために言葉を使うのか」という視点を明確にし、学習活動の目的を意識できるようにするため、思考力・判断力・表現力等の内容については、**従来の「話す・聞く／書く／読む」といった領域のみならず、「事実や知識の整理と理解／考えや主張の理由付けと吟味／思いや経験の表出と想像／協働による深化や合意／伝統的な言語文化の継承と創造」といった「話や文章の機能（仮称）」を基に整理**して示す方向で検討

2. その他の重要論点について

- **学習の基盤となる資質・能力である「言語能力」の在り方**について、AIによる大量の言語生成が可能となり、それをSNS等で容易に発信可能な時代だからこそ、自らの意思や考えを形成・表現することや、他者の経験・感情を理解することといった**人間ならではの言語能力を重視する観点から再整理**。また教育課程全体を通じた言語能力育成の一層の推進のため、国語科と各教科等での言語能力育成の役割分担について整理
- **高校国語科の選択科目について**、現行の趣旨は維持しつつ、論理的思考力、感性・情緒の両面について、二項対立に陥らず、バランスよく統合的かつ効果的に育成する等の観点から、**再編を検討**

選択科目の見直しの方向性

- ① 選択科目（論理国語・文学国語・国語表現・古典探究）の中から、標準的な内容項目を抽出し、
 - ・主として論理的に考える力を育成し、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の3領域を偏りなく学ぶ4単位科目（現代の国語Ⅱ）
 - ・主として感性や情緒を豊かに育み、古典と近代以降の文章を、我が国の言語文化として学ぶ4単位科目（言語文化Ⅱ）
 を大多数の生徒の履修を想定した選択科目として新設することで、領域の学びの偏りを解消し、多様な文章を読む機会を確保する。
- ② その上で、上記「Ⅱ」科目の履修を前提に、より発展的に内容を焦点化して学ぶ選択科目群（論説と批評、対話と表現、文学と叙述、古典と文化）（2単位相当）を設定し、生徒の興味・関心に応じた選択を可能にする科目構成とする。

(国語WG)「総合的な発揮」・「統合的な理解」の設定の趣旨や授業改善に向けたねらい【並行】

① 相手や状況、目的に応じて、「話や文章の機能（仮称）」ごとに位置付けた思考・判断・表現の力を総合的に発揮し、自分の考えや思いをよりよく伝えることができる姿を示している。これにより、文章の型や手順をなぞって終わる授業ではなく、文章の機能を踏まえつつ生徒が相手や状況、目的を意識し、相手によりよく伝える表現を工夫する授業へと改善することを促す。

② 言葉の知識を、相手や状況、目的に応じて使うことで、理解・思考・表現の質が高まることを生徒が理解している姿を示している。これにより、語句や文法などの個別の知識を機械的に覚える授業ではなく、それらを実際の話すこと・聞くこと、書くこと、読むことの中で結び付けて使い、文章の理解が深まり、考えが整理され、表現がよりよくなることを実感できる授業へと改善することを促す。

③ 言葉や文字の仕組み、読書、伝統的な言語文化を学ぶ意義や価値を生徒が理解している姿を示している。これにより、言葉や文字の仕組みを知ること、古典や読書に親しむこと、文字を整えて書くことなどを、それぞれの知識や技能を機械的に習得する授業ではなく、それらが自分の考え方や感じ方、他者との関わり、社会や文化の在り方にどうつながるのかを実感できる授業へと改善することを促す。

※例は「書くこと」の領域であるが、知識及び技能①の側面は、「読むこと」など他の領域の学習の過程でも生かし深めることを前提としている。

		書くこと		
思考力・判断力・表現力等		総合的な発揮	話や文章の機能（仮称）	内容項目例
		相手や状況、目的に応じて、 <u>文章の書き方を工夫</u> することにより、 <u>考えや思いをよりよく伝えることができる。</u>	事実や知識の整理と理解 考えや主張の理由付けと吟味 思いや経験の表出と想像	・説明や解説などの文章を書く ・根拠に基づいて主張する文章などを書く ・経験や想像したことを基に思いや感動を伝える文章などを書く
知識及び技能	①各領域の学習の過程で生かし深める側面	統合的な理解	事項のまとめ	内容項目例
		社会生活に必要な言葉の様々な意味や働き、使い方等を身に付け、相手や状況、目的に応じて <u>使うことにより、理解や思考、表現の質が高まることを理解</u> している。	文や文章の構造 表現の仕方 情報と情報の関係 情報の信頼性	・話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴、・段落の構造、・場面の設定など ・文脈の中での語句の意味理解、文脈に応じた語句の選択、・表現の技法の種類とその特徴、・引用の仕方や効果など ・情報と情報との関係、・情報の整理の仕方など ・情報の信頼性の確かめ方など
	②各領域の学習を支える文化的な知識や態度、教養として深める側面	統合的な理解	事項のまとめ	内容項目例
		幅広く多様な言葉に触れ蓄えながら我が国の言語文化のもつ意義や価値を捉えることが、 <u>自己の形成、社会生活の向上、文化の創造と継承につながることを理解</u> している。	言葉のきまりや使い方 伝統的な言語文化 書写 読書	・言語が共通にもつ言葉の働き、・書き言葉と話し言葉、・漢字の読み方・書き方、漢字の構成、・単語の類別、単語の活用、助詞や助動詞などの働き など ・音読するなどして言葉の響きや伝統的な言語文化の世界に親しむ、・古典に表れたものの見方や考え方 ・楷書や行書の書き方、・文字言語の豊かさに触れながら効果的に文字を書く ・選書の仕方、自らの興味・関心等に応じた自立的な読書

(外国語WG) 資質・能力の構造化等に関連する検討のポイント

1. 目標・内容の構造化等のポイントについて

- 英語科は知識及び技能よりも思考力・判断力・表現力等の系統性が明確であり、知識及び技能が全体として思考力・判断力・表現力等の深まりを助けることを明確にするため、「並行」パターンでの表形式化を検討
- 「言語活動」について、活動を資質・能力にどのように結びつけるか分かりにくい、「知・技」を育成するための学習過程を十分に示すことができていないなどの課題があることを踏まえ、「コミュニケーション活動」（主に思・判・表を育成する活動）と「コミュニケーション活動を支える活動」（主に知・技を育成する活動）に再整理し、目標の柱書に位置づける
- 「外国語を使って何ができるようになるか」の段階的な高度化を「思考力・判断力・表現力等」の深まりとして示し、観点別評価も行いやすくするため、領域別目標の要素（聞くこと、読むこと、話すこと【やり取り】、話すこと【発表】、書くこと）を「思考力・判断力・表現力等」の内容に移行
- 「思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮」については、CEFRの分類（Reception・Production・Interaction）も参照し、「理解する・表現する・伝え合う」に分けて記載

2. その他の重要論点について

- AI時代に外国語を必修とする「本質的意義」として、「言葉、文化、コミュニケーションへの深い理解を育むこと」と「自分の考えが磨かれて思考が深まり、人間関係が豊かになること」を柱に要素を整理（見方・考え方に反映）
- 高校の英語科目については、英語によるコミュニケーションを中核とする科目趣旨を端的に示すため、5領域を総合的に扱う「英語コミュニケーション」は「英語コミュニケーション（総合）」に、話すことや書くことを中心に扱う「論理・表現」は、発信力の一層の強化を図るため「英語コミュニケーション（発信）」に変更（これらを踏まえた内容構成の変更が生じるため、資質・能力の構造化の素案については英語コミュニケーション（総合）Ⅰ及び英語コミュニケーション（発信）Ⅰのみ示している。）
- コミュニケーションに必要な重要な語彙に繰り返し触れ、様々な文脈や場面で発信に活用できるようにするため、指導すべき語彙数の精選も含めて、基盤語彙リストを整備する方向で検討

(外国語WG)「総合的な発揮」・「統合的な理解」の設定の趣旨や授業改善に向けたねらい【並行】

- ① 外国語を学ぶ意義の議論を踏まえ、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じた情報や考えの整理・表現の工夫・互いの考えを伝え合うことを目指すことを明確化しつつ、国際的な通用性のある外国語能力を育成する観点から、国際的な基準であるCEFRの分類（Reception・Production・Interaction）も参照し、理解する・表現する・伝え合うに分けて記載。
- ② 一定の言語体系が習得されており、各技能の熟達言語運用能力に直結する母語の学習とは異なり、未習得言語の学習では特に4技能をバランス良く育成し、実現可能なコミュニケーションの水準を全体として高めていくことが重要であることから、国語のように技能領域別ではなく、コミュニケーションの意味のまとまり別に示している。これにより、4技能をバランス良く発揮させるような授業づくりを促す。

- ③ 英語で聞く・読む・話す・書くことに向けて、様々な音声や語彙、表現、文構造及び文法等を学ぶことの意義を理解している姿を端的に表す。これにより、単に単語の意味や文法を覚えるのではなく、そうした知識を、場面や状況に応じてコミュニケーション活動で組み合わせて使うことにより、英語を聞く・読む際に理解しやすくなったり、話す・書く際により自分が伝えたいことが表現できるようになるなど、理解や表現の質が高まることを実感できる授業づくりへの改善を促す。

総合的な発揮		領域	内容項目例 (第1学年相当)	内容項目例 (第2学年相当)	内容項目例 (第3学年相当)
思考力、判断力、表現力等	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、様々な話題について、 ・情報や考えなどを捉え、整理したり、既存の知識などと関連付けたりすることができる。【理解する】 ・情報や自分の考えなどを整理し、表現等を工夫して伝えることができる。【表現する】 ・相手の考えなどを受け止めながら、情報や自分の考えなどを整理し、表現等を工夫して伝え合うことができる。【伝え合う】		話題	日常的な話題について 身近な社会的な話題について ※後半以降を想定	
		聞くこと	条件	簡単な語句や文で、はっきりと話されれば	
			できること	(ア) 必要な情報を聞き取ることができる …	
		読むこと	条件	簡単な語句や文で書かれた	
			できること	(ア) 必要な情報を読み取ることができる …	
			話題	日常的な話題について（身近な話題について、（自分にとって）興味・関心のある話題について） 身近な社会的な話題について ※後半以降を想定	
			条件	簡単な語句や文を用いて	
		話すこと （やり取り）	できること	(ア) 自分の考えや気持ちなどを即興で伝え合うことができる（※身近な社会的な話題については対象としない） …	
知識及び技能	英語の特徴やきまりに関する知識を、コミュニケーションの中で組み合わせて使うことにより、英語による理解や表現の質が高まることを理解している。	話すこと （発表）		(ア) 自分の考えや気持ちなどを即興で話すことができる（※身近な社会的な話題については対象としない） …	
		書くこと		(ア) 情報や自分の考え、気持ちなどを文で書くことができる …	
		領域			
		英語の特徴やきまりに関する事項	ア 音声	音声の特徴を理解し、読んだり話したりする際に活用できる …	
			イ 符号	符号の意味や使い方を理解し、読んだり書いたりする際に活用できる …	
			ウ 語、連語及び慣用表現	語、連語及び慣用表現の意味や使い方を理解し、聞いたり読んだりする際に活用できる …	
			エ 文、文構造及び文法事項	文、文構造及び文法事項の意味や使い方を理解し、聞いたり読んだり、話したり書いたりする際に活用できる ・ 文 …	

**国語科における
教科の目標、見方・考え方、
資質・能力の全体構造（案）**

国語科における教科の目標、見方・考え方（案）

目標

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
柱書	国語で理解し、考え、表現する資質・能力について、話すこと・聞くこと、書くこと、読むことを通して、次のとおり育成することを目指す。		
小学校	日常生活に必要な国語の特質を理解し適切に使うとともに、我が国の言語文化に触れながら親しむことができるようにする。	国語で筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い、日常生活における他者との関わりの中で、互いの立場や考えを尊重しながら伝え合う力を高める。	①考えたり感じたりしたことを自ら進んで表現し、伝え合う過程に気を付けながら、学びの質を高めようとする態度を養う。 ②言語感覚を育み、我が国の言語文化に触れ、国語を尊重する態度を養う。
中学校	社会生活に必要な国語の特質を理解し適切に使うとともに、我が国の言語文化に親しみながら理解できるようにする。	国語で論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を養い、社会生活における他者との関わりの中で、互いの立場や考えを尊重しながら伝え合う力を高める。	①考えたり感じたりしたことを自ら進んで表現し、伝え合う過程を確かめながら、学びの質を高めようとする態度を養う。 ②言語感覚を豊かにし、我が国の言語文化に関わり、国語を尊重する態度を養う。
高等学校	生涯にわたる社会生活に必要な国語の特質を深く理解し適切に使うとともに、我が国の言語文化を理解できるようにする。	国語で論理的に考える力、深く共感したり豊かに想像したりする力、生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で、互いの立場や考えを尊重しながら伝え合う力を高める。	①考えたり感じたりしたことを自ら進んで表現し、伝え合う過程を吟味しながら、学びの質を高めようとする態度を養う。 ②言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、国語を尊重する態度を養う。

見方・考え方

- 自分や他者の言葉を、意味や働き、使い方や表現の意図に着目して多面的・多角的に吟味し、多様な立場や考えを理解して、丁寧に言葉を選び、よりよく伝え合うこと

高等学校国語科・各科目の目標（案）

※具体の文言は今後告示文を検討する中で引き続き精査

国語科の目標（※小中高共通）			
柱書：国語で理解し，考え，表現する資質・能力について，話すこと・聞くこと，書くこと，読むことを通して，次のとおり育成することを目指す。			
知識及び技能		思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
生涯にわたる社会生活に必要な国語の特質を深く理解し適切に使うとともに，我が国の言語文化を理解できるようにする。		国語で論理的に考える力，深く共感したり豊かに想像したりする力，生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で互いの立場や考えを尊重しながら伝え合う力を高める。	①考えたり感じたりしたことを自ら進んで表現し，伝え合う過程を吟味しながら，学びの質を高めようとする態度を養う。 ②言語感覚を磨き，我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち，国語を尊重する態度を養う。
現代の国語Ⅰ	目標の柱書：国語で理解し，考え，表現する資質・能力について，話すこと・聞くこと，書くこと，読むことを通して，次のとおり育成することを目指す。		
	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付け，適切に使えるようにする。	国語で論理的に考える力や，生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で互いの立場や考えを尊重しながら伝え合う力を高める。	①様々な話や文章に触れて考えたり感じたりしたことを自ら進んで表現し，理解や考え、表現の工夫を伝え合う過程を吟味しながら，学びの質を高めようとする態度を養う。 ②言語感覚を磨き，我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち，国語を尊重する態度を養う。
現代の国語Ⅱ	目標の柱書：国語で理解し，考え，表現する資質・能力について，話すこと・聞くこと，書くこと，読むことを通して，次のとおり育成することを目指す。		
	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付け，効果的に使えるようにする。	国語で論理的に考える力や，生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で互いの立場や考えを尊重しながら伝え合う力を高め，発揮する。	同上
論説と批評	目標の柱書：国語で理解し，考え，表現する資質・能力について，書くこと，読むことを通して，次のとおり育成することを目指す。		
	学術的な学びの基礎に係る事柄に関する国語の知識や技能を身に付け，効果的に使えるようにする。	国語で論理的に考える力を高め，他者や自己の思考の妥当性を吟味する力を養う。	①様々な文章に触れて考えたり感じたりしたことを自ら進んで表現し，理解や考え、表現の工夫を伝え合う過程を吟味しながら，学びの質を高めようとする態度を養う。 ②言語感覚を磨き，我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち，国語を尊重する態度を養う。
対話と表現	目標の柱書：国語で理解し，考え，表現する資質・能力について，話すこと・聞くこと，書くことを通して，次のとおり育成することを目指す。		
	多様な他者との多角的な関わりに必要な国語の知識や技能を身に付け，効果的に使えるようにする。	生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で互いの立場や考えを尊重しながら伝え合う力を発揮し，様々な媒体を通して言葉で他者と協働する力を養う。	①様々な話や文章に触れて考えたり感じたりしたことを自ら進んで表現し，自分の考えや表現の工夫を伝え合う過程を吟味しながら，学びの質を高めようとする態度を養う。 ②言語感覚を磨き，我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち，国語を尊重する態度を養う。
言語文化Ⅰ	目標の柱書：国語で理解し，考え，表現する資質・能力について，書くこと，読むことを通して，次のとおり育成することを目指す。		
	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付け適切に使うとともに，我が国の言語文化を広く理解できるようにする。	国語で深く共感したり豊かに想像したりする力を高め，先人のものの見方，感じ方，考え方との関わりの中で古典の意義や価値について考える力を養う。	①様々な文章に触れて考えたり感じたりしたことを自ら進んで表現し，理解や解釈、考え、表現の工夫を伝え合う過程を吟味しながら，学びの質を高めようとする態度を養う。 ②言語感覚を磨き，我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち，国語を尊重する態度を養う。
言語文化Ⅱ	目標の柱書：国語で理解し，考え，表現する資質・能力について，書くこと，読むことを通して，次のとおり育成することを目指す。		
	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付け効果的に使うとともに，我が国の言語文化を深く理解できるようにする。	国語で深く共感したり豊かに想像したりする力や，先人のものの見方，感じ方，考え方との関わりの中で古典の意義や価値について考える力を高める。	同上
文学と叙述	目標の柱書：国語で理解し，考え，表現する資質・能力について，書くこと，読むことを通して，次のとおり育成することを目指す。		
	創作に係る事柄に関する国語の知識や技能を身に付け，効果的に使えるようにする。	国語で深く共感したり豊かに想像したりする力を高め，創造的に考える力を養う。	同上
古典と文化	目標の柱書：国語で理解し，考え，表現する資質・能力について，読むことを通して，次のとおり育成することを目指す。		
	古典の文章の理解や表現に関する国語の知識や技能を身に付け使うとともに，我が国の言語文化を深く理解できるようにする。	先人のものの見方，感じ方，考え方との関わりの中で古典の意義や価値について考える力を高め，現代における価値を創出する力を養う。	①様々な文章に触れて自ら進んで考え，理解や解釈、考えを伝え合う過程を吟味しながら，学びの質を高めようとする態度を養う。 ②言語感覚を磨き，我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち，国語を尊重する態度を養う。

資質・能力全体構造（案）

領域ごとに示す

共通の内容を、領域ごと
の思判表と一体的に示す

領域ごとに示す

共通の内容を、領域ごと
の思判表と一体的に示す

A 話すこと・聞くこと			
小学校	思考力・判断力・表現力等	総合的な発揮	話や文章の機能
			内容項目例
			事実や知識の整理と理解／ 考えや主張の理由付けと吟味
			・紹介や説明、報告などをする ・主張や提案などをする ・説明や報告、主張などを聞いて、感想を伝えたり自分の考えをもったりする
	知識 及び 技能	①各領域 の学習の 過程で 生かし深め る側面	協働による深化や合意
			・尋ねたり応答したり、話し合いの進行を工夫したりするなどして、互いの発言を関連付けて考えをまとめる
			統合的な理解
			事項のまとめ
			内容項目例
			日常生活に必要な言葉の様々な意味や働き、使い方等を身に付け、相手や状況、目的に応じて使うことにより、理解や思考、表現の質が高まることを理解している。
			話や文章の構造
			・話の構成や展開、話の種類とその特徴 ・段落の役割、場面の設定
			表現の仕方
			・音節と文字との関係、アクセントや抑揚、間の取り方 ・比喩や反復などの表現の工夫 ・引用の仕方 ・描写の仕方、図表の用い方
			情報と情報との関係
			・情報と情報との関係 ・情報の整理の仕方
			情報の信頼性
			・発信元や発信時期の確認、初歩的な情報の信頼性の確かめ方

B 書くこと			
小学校	思考力・判断力・表現力等	総合的な発揮	話や文章の機能
			内容項目例
			事実や知識の整理と理解
			・記録や説明、報告などの文章を書く
	知識 及び 技能	①各領域 の学習の 過程で 生かし深め る側面	考えや主張の理由付けと吟味
			・理由に基づいて意見を述べる文章を書く
			思いや経験の表出と想像
			・経験や想像したことを基に思いや感動を伝える文章を書く
	知識 及び 技能	統合的な理解	事項のまとめ
			内容項目例
			日常生活に必要な言葉の様々な意味や働き、使い方等を身に付け、相手や状況、目的に応じて使うことにより、理解や思考、表現の質が高まることを理解している。
			話や文章の構造
			・文章の構成や展開、文章の種類とその特徴 ・段落の役割、場面の設定
			表現の仕方
			・比喩や反復などの表現の工夫 ・引用の仕方 ・描写の仕方、図表の用い方
			情報と情報との関係
			・情報と情報との関係 ・情報の整理の仕方
			情報の信頼性
			・発信元や発信時期の確認、初歩的な情報の信頼性の確かめ方

資質・能力全体構造（案）

C 読むこと			
小学校	思考力・判断力・表現力等	総合的な発揮	話や文章の機能
			内容項目例
			状況や目的に応じて、文章の読み方を工夫することにより、理解や解釈したことを踏まえて自分の考えを広げ深めることができる。
	知識及び技能	①各領域の学習の過程で生かし深める側面	事実や知識の整理と理解／考えや主張の理由付けと吟味
			思いや経験の表出と想像
			・説明や解説などの文章の内容を理解して自分の考えをもつ
			・文学的な文章の内容を理解して自分の考えをもつ
			統合的な理解
			事項のまとめ
			内容項目例
			日常生活に必要な言葉の様々な意味や働き、使い方等を身に付け、状況や目的に応じて使うことにより、理解や思考、表現の質が高まることを理解している。
			音読
			・音読、朗読
			話や文章の構造
			・文章の構成や展開、文章の種類とその特徴
			・段落の役割、場面の設定
			表現の仕方
			・音節と文字との関係 ・比喻や反復などの表現の工夫、引用の仕方
			・描写の仕方、図表の用い方
			情報と情報との関係
			・情報と情報との関係 ・情報の整理の仕方
			情報の信頼性
			・発信元や発信時期の確認、初歩的な情報の信頼性の確かめ方

領域ごとに示す

共通の内容を、領域ごとの
思考表と一体的に示す

小学校	知識及び技能	②各領域の学習を支える文化的な知識や態度、教養として深める側面	統合的な理解
			事項のまとめ
			内容項目例
			幅広く多様な言葉に触れ蓄えながら我が国の言語文化のもつ意義や価値に気付くことが、自己の形成、日常生活の向上、文化の創造と継承につながることを理解している。
			言葉のきまりや使い方
	知識及び技能	②各領域の学習を支える文化的な知識や態度、教養として深める側面	・言語が共通にもつ言葉の働き ・書き言葉と話し言葉
			・漢字を読む、漢字を書く、漢字の構成
			・語句同士の関係を理解し、語彙を豊かにする
			・敬語の働き、相手や場に応じた言葉遣い
			・時代による言葉の違い、地域や世代による言葉の違い
			伝統的な言語文化
			・伝統的な言語文化に親しむ ・古典に表れたものの見方や考え方
			書写
			・文字の書き方、姿勢、筆記具の持ち方、選び方、筆順
			・文字文化を親しむ
			読書
			・選書の仕方、読書の意義や効用の実感
			・読書計画の立て方、読書記録の取り方

共通の内容を、各領域とは別に
全体を支える形で示す

資質・能力全体構造（案）

A 話すこと・聞くこと

思考力・判断力・
表現力等

総合的な発揮

話や文章の機能

内容項目例

相手や状況、目的に応じて、話し方・聞き方を工夫することにより、考えや思いをよりよく伝えるとともに、他者とのやり取りを通じて自分の考えを捉え直し、広げ深めることができる。

事実や知識の整理と理解

・説明や解説などをする

考えや主張の理由付けと吟味

・説明や解説、主張などを聞いて自分の考えをもつ

・根拠に基づいて主張などを述べる

協働による深化や合意

・進行を工夫し互いの発言を関連付けて考えをまとめる

統合的な理解

事項のまとめ

内容項目例

知識
及び
技能①各領域の
学習の過程
で
生かし深める
側面

社会生活に必要な言葉の様々な意味や働き、使い方等を身に付け、相手や状況、目的に応じて使うことにより、理解や思考、表現の質が高まることを理解している。

話や文章の構造

・文の成分の順序や照応など文の構成
・話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴
・段落の構造 ・場面の設定

表現の仕方

・分かりやすく明瞭な話し方
・文脈の中での語句の意味理解、文脈に応じた語句の選択
・表現の技法の種類とその特徴 ・引用の仕方や効果（古典等の一節の引用を含む）
・情景や心情、行動などの描写の仕方 ・図表の用い方や効果

情報と情報との関係

・情報と情報との関係 ・情報の整理の仕方

情報の信頼性

・情報の信頼性の確かめ方

領域ごとに示す

共通の内容を、領域ごとの
思判表と一体的に示す

B 書くこと

思考力・判断力・
表現力等

総合的な発揮

話や文章の機能

内容項目例

相手や状況、目的に応じて、文章の書き方を工夫することにより、考えや思いをよりよく伝えることができる。

事実や知識の整理と理解

・説明や解説などの文章を書く

考えや主張の理由付けと吟味

・根拠に基づいて主張する文章などを書く

思いや経験の表出と想像

・経験や想像したことを基に思いや感動を伝える文章などを書く

統合的な理解

事項のまとめ

内容項目例

知識
及び
技能①各領域の
学習の過程
で
生かし深める
側面

社会生活に必要な言葉の様々な意味や働き、使い方等を身に付け、相手や状況、目的に応じて使うことにより、理解や思考、表現の質が高まることを理解している。

話や文章の構造

・文の成分の順序や照応など文の構成
・話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴
・段落の構造 ・場面の設定

表現の仕方

・文脈の中での語句の意味理解、文脈に応じた語句の選択
・表現の技法の種類とその特徴 ・引用の仕方や効果（古典等の一節の引用を含む）
・情景や心情、行動などの描写の仕方 ・図表の用い方や効果

情報と情報との関係

・情報と情報との関係 ・情報の整理の仕方

情報の信頼性

・情報の信頼性の確かめ方

領域ごとに示す

共通の内容を、領域ごとの
思判表と一体的に示す
26

資質・能力全体構造（案）

C 読むこと			
中学校	思考力・判断力・表現力等	総合的な発揮	話や文章の機能
			内容項目例
			状況や目的に応じて、文章の読み方を工夫することにより、理解や解釈したことを踏まえて自分の考えを広げ深めることができる。
			事実や知識の整理と理解 考えや主張の理由付けと吟味 思いや経験の表出と想像
	知識及び技能	①各領域の学習の過程で生かし深める側面	事項のまとまり
			内容項目例
			社会生活に必要な言葉の様々な意味や働き、使い方等を身に付け、状況や目的に応じて使うことにより、理解や思考、表現の質が高まることを理解している。
			話や文章の構造
			表現の仕方
			情報と情報との関係
			情報の信頼性

領域ごとに示す

共通の内容を、領域ごとの
思判表と一体的に示す

中学校	知識及び技能	②各領域の学習を支え文化的な知識や態度、教養として深める側面	統合的な理解
			事項のまとまり
			内容項目例
			幅広く多様な言葉に触れ蓄えながら我が国の言語文化のもつ意義や価値を捉えることが、自己の形成、社会生活の向上、文化の創造と継承につながることを理解している。
			言葉のきまりや使い方
			伝統的な言語文化
			書写
			読書

共通の内容を、各領域とは別に
全体を支える形で示す

資質・能力の全体構造 (案)

		A 話すこと・聞くこと		
高等学校	思考力・判断力・表現力等	総合的な発揮 相手や状況、目的に応じて、話し方・聞き方を工夫することにより、考えや思いをよりよく伝えるとき、他者とのやり取りを通じて自分の考えを捉え直し、広げ深めることができる。	話や文章の機能	内容項目例
			事実や知識の整理と理解	・説明や解説などをする
			考えや主張の理由付けと吟味	・説明や解説、主張などを聞き、質問したり反論したりする ・根拠に基づいて意見や主張を述べる
			協働による深化や合意	・実社会の中から話題を決め、話し合いの種類や目的に応じて結論の出し方を工夫する。 ・論点を共有し、考えを広げたり深めたりする。
	知識及び技能	①各領域の学習の過程で生かし深める側面 統合的な理解 実社会で必要となる言葉の様々な意味や働き、使い方等を身に付け、相手や状況、目的に応じて使うことにより、理解や思考、表現の質が高まることを理解している。	事項のまとめ	内容項目例
			話や文章の構造	・文、話、文章の構成や特徴 ・段落の構造
			表現の仕方	・文脈の中での語句の意味理解、文脈に応じた語句の選択 ・表現の技法の種類とその特徴 ・引用の仕方や効果 ・図表の用い方や効果
			情報と情報との関係	・情報と情報との関係・情報の整理
			情報の信頼性	・情報の妥当性や信頼性の吟味の仕方

領域ごとに示す

共通の内容を、領域ごとの
思判表と一体的に示す

		B 書くこと		
高等学校	思考力・判断力・表現力等	総合的な発揮 相手や状況、目的に応じて、文章の書き方を工夫することにより、考えを論理的に伝えることができる。	話や文章の機能	内容項目例
			事実や知識の整理と理解	・説明や解説を述べる文章を書く
			考えや主張の理由付けと吟味	・意見や考えを論述する
			事項のまとめ	内容項目例
	知識及び技能	①各領域の学習の過程で生かし深める側面 統合的な理解 実社会で必要となる言葉の様々な意味や働き、使い方等を身に付け、相手や状況、目的に応じて使うことにより、理解や思考、表現の質が高まることを理解している。	話や文章の構造	・文、話、文章の構成や特徴 ・段落の構造
			表現の仕方	・文脈の中での語句の意味理解、文脈に応じた語句の選択 ・表現の技法の種類とその特徴 ・引用の仕方や効果 ・図表の用い方や効果
			情報と情報との関係	・情報と情報との関係 ・情報の整理
			情報の信頼性	・情報の妥当性や信頼性の吟味の仕方

領域ごとに示す

共通の内容を、領域ごとの
思判表と一体的に示す

資質・能力の全体構造（案）

C 読むこと			
高等学校	思考力・判断力・表現力等		総合的な発揮
			状況や目的に応じて、文章の読み方を工夫することにより、理解や解釈したことを踏まえて自分の考えを広げ深めることができる。
	知識及び技能	①各領域の学習の過程で生かし深める側面	話や文章の機能
			事実や知識の整理と理解
			考えや主張の理由付けと吟味
			内容項目例
			・説明や解説が述べられている文章の内容を理解して、自分の考えをもつ
			・主張や意見が述べられている文章の内容を理解して、自分の考えをもつ
			統合的な理解
			事項のまとまり
			内容項目例
			実社会で必要となる言葉の様々な意味や働き、使い方等を身に付け、状況や目的に応じて使うことにより、理解や思考、表現の質が高まることを理解している。
			話や文章の構造
			表現の仕方
			情報と情報との関係
			情報の信頼性

領域ごとに示す

共通の内容を、領域ごとの
思 判 表 と 一 体 的 に 示 す

高等学校	知識及び技能	②各領域の学習を支える文化的な知識や態度、教養として深める側面	統合的な理解
			事項のまとまり
			内容項目例
			幅広く多様な言葉に触れ蓄えながら我が国の言語文化のもつ意義や価値を深く捉えることが、自己の形成、社会生活の向上、文化の創造と継承につながることを理解している。
			言葉のきまりや使い方
			読書

共通の内容を、各領域とは別に
全体を支える形で示す

資質・能力の全体構造（案）

				A 書くこと		
高等学校	思考力・判断力・表現力等		総合的な発揮	話や文章の機能	内容項目例	
			相手や状況、目的に応じて、文章の書き方を工夫することにより、思いを感性豊かに伝えることができる。	思いや経験の表出と想像	・自分の知識や経験を基に、思いや経験、想像したことを伝える文章を書く	
	知識及び技能	①各領域の学習の過程で生かし深める側面	統合的な理解	事項のまとまり	内容項目例	
			我が国の言語文化に関わる言葉の様々な意味や働き、使い方を身に付け、相手や状況、目的に応じて使うことにより、理解や思考、表現の質が高まることを理解している。	話や文章の構造 表現の仕方	・文、話、文章の構成や特徴 ・場面の設定 ・文脈の中での語句の意味理解、文脈に応じた語句の選択 ・表現の技法の種類とその特徴 ・情景や心情、行動などの描写の仕方	
				B 読むこと		
高等学校	思考力・判断力・表現力等		総合的な発揮	話や文章の機能	内容項目例	
				状況や目的に応じて、文章の読み方を工夫することにより、理解や解釈したことを踏まえて自分の考えを広げ深めることができる。	思いや経験の表出と想像 伝統的な言語文化の継承と創造	・経験や想像したこと、感じたことを表した文章を読み、自分の考えをもつ ・古典としての古文や漢文、我が国の伝統や文化に関連する文章を読み、我が国の言語文化について自分の考えをもつ
			知識及び技能	①各領域の学習の過程で生かし深める側面	統合的な理解	事項のまとまり
	我が国の言語文化に関わる言葉の様々な意味や働き、使い方を身に付け、状況や目的に応じて使うことにより、理解や思考、表現の質が高まることを理解している。	話や文章の構造 表現の仕方			・文、話、文章の構成や特徴 ・場面の設定 ・文脈の中での語句の意味理解、文脈に応じた語句の選択 ・表現の技法の種類とその特徴 ・情景や心情、行動などの描写の仕方	
		古典を読むためのことばのきまり			・文語のきまりや訓読、古典特有の表現	
	高等学校	知識及び技能	②各領域の学習を支える文化的な知識や態度、教養として深める側面	統合的な理解	事項のまとまり	内容項目例
幅広く多様な言葉に触れ蓄えながら我が国の言語文化のもつ意義や価値を深く捉えることが、自己の形成、社会生活の向上、文化の創造と継承につながることを理解している。				言葉のきまりや使い方	・言語が共通にもつ言葉の働き ・話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色 ・漢字の読みと書き ・語句同士の関係を理解し、語彙を豊かにする ・敬語を含め広く相手や場に応じた表現や言葉遣い ・時間の経過や地域の文化的特徴などによる文字や言葉の変化	
				伝統的な言語文化	・我が国の文化と外国の文化との関係 ・我が国の文化・言語文化の特質 ・作品の歴史的・文化的背景 ・伝統的な言語文化に親しむ	
				読書	・選書の仕方、自らの興味・関心等に応じた自立的な読書	

領域ごとに示す

共通の内容を、領域ごとの思判表と一体的に示す

領域ごとに示す

共通の内容を、領域ごとの思判表と一体的に示す

共通の内容を、各領域とは別に全体を支える形で示す

高等学校国語科・各科目の高次の資質・能力（案）① ※具体的な文言は今後告示文を検討する中で引き続き精査

			話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと
現代の国語Ⅰ	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮		相手や状況、目的に応じて、話し方・聞き方を工夫することにより、考えや思いをよりよく伝えようと、他者とのやり取りを通じて自分の考えを捉え直し、広げ深めることができる。	相手や状況、目的に応じて、文章の書き方を工夫することにより、考えを論理的に伝えることができる。	状況や目的に応じて、文章の読み方を工夫することにより、理解したことを踏まえて自分の考えを広げ深めることができる。
	知識及び技能の統合的な理解	側面①	実社会で必要となる言葉の様々な意味や働き、使い方を身に付け、相手や状況、目的に応じて使うことにより、理解や思考、表現の質が高まることを理解している。	実社会で必要となる言葉の様々な意味や働き、使い方を身に付け、相手や状況、目的に応じて使うことにより、理解や思考、表現の質が高まることを理解している。（再掲）	実社会で必要となる言葉の様々な意味や働き、使い方を身に付け、状況や目的に応じて使うことにより、理解や思考、表現の質が高まることを理解している。
		側面②	幅広く多様な言葉に触れ蓄えながら我が国の言語文化のもつ意義や価値を深く捉えることが、自己の形成、社会生活の向上、文化の創造と継承につながることを理解している。		
現代の国語Ⅱ	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮		相手や状況、目的に応じて、話し方・聞き方を工夫することにより、考えや思いを効果的に伝えようと、他者とのやり取りを通じて自分の考えを捉え直し、広げ深めることができる。	相手や状況、目的に応じて、文章の書き方を工夫することにより、考えを論理的かつ効果的に伝えることができる。	状況や目的に応じて、文章の読み方を工夫することにより、理解したことを踏まえて自分の考えを吟味し再考することができる。
	知識及び技能の統合的な理解	側面①	実社会で必要となる言葉の様々な意味や働き、使い方を身に付け、相手や状況、目的に応じて使うことにより、理解や思考、表現の質が高まることを理解している。	実社会で必要となる言葉の様々な意味や働き、使い方を身に付け、相手や状況、目的に応じて使うことにより、理解や思考、表現の質が高まることを理解している。（再掲）	実社会で必要となる言葉の様々な意味や働き、使い方を身に付け、状況や目的に応じて使うことにより、理解や思考、表現の質が高まることを理解している。
		側面②	幅広く多様な言葉に触れ蓄えながら我が国の言語文化のもつ意義や価値を深く捉えることが、自己の形成、社会生活の向上、文化の創造と継承につながることを理解している。		
論説と批評	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮			相手や状況、目的に応じて、考えや意見を効果的に論述することができる。	状況や目的に応じて、文章の読み方を工夫することにより、他者の思考の妥当性を吟味し、自分の考えを省察することができる。
	知識及び技能の統合的な理解	側面①		学術的な学びの基礎に係る事柄に関する言葉の様々な意味や働き、使い方を身に付け、相手や状況、目的に応じて使うことにより、理解や思考、表現の質が高まることを理解している。	学術的な学びの基礎に係る事柄に関する言葉の様々な意味や働き、使い方を身に付け、状況や目的に応じて使うことにより、理解や思考、表現の質が高まることを理解している。
		側面②		幅広く多様な言葉に触れ蓄えながら我が国の言語文化のもつ意義や価値を深く捉えることが、自己の形成、社会生活の向上、文化の創造と継承につながることを理解している。	
対話と表現	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮		相手や状況、目的に応じて、話し方・聞き方を工夫することにより、効果的に対話し他者と協働することができる。	相手や状況、目的に応じて、文章の書き方を工夫することにより、考えや思いを効果的に表現することができる。	
	知識及び技能の統合的な理解	側面①	多様な他者との多角的な関わりに必要な言葉の様々な意味や働き、使い方を身に付け、相手や状況、目的に応じて使うことにより、理解や思考、表現の質が高まることを理解している。	多様な他者との多角的な関わりに必要な言葉の様々な意味や働き、使い方を身に付け、相手や状況、目的に応じて使うことにより、理解や思考、表現の質が高まることを理解している。（再掲）	
		側面②	幅広く多様な言葉に触れ蓄えながら我が国の言語文化のもつ意義や価値を深く捉えることが、自己の形成、社会生活の向上、文化の創造と継承につながることを理解している。		

高等学校国語科・各科目の高次の資質・能力（案）②

※ 具体的な文言は今後告示文を検討する中で引き続き精査

			書くこと	読むこと
言語文化Ⅰ	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮		相手や状況，目的に応じて，文章の書き方を工夫することにより， 思いを感性豊かに 伝えることができる。	状況や目的に応じて，文章の読み方を工夫することにより，理解や解釈したことを踏まえて自分の考えを 広げ深める ことができる。
	知識及び技能の統合的な理解	側面①	我が国の言語文化に関わる言葉の様々な意味や働き，使い方等を身に付け，相手や状況，目的に応じて使うことにより，理解や思考，表現の質が高まることを理解している。	我が国の言語文化に関わる言葉の様々な意味や働き，使い方等を身に付け，状況や目的に応じて使うことにより，理解や思考，表現の質が高まることを理解している。
		側面②	幅広く多様な言葉に触れ蓄えながら我が国の言語文化のもつ意義や価値を深く捉えることが，自己の形成，社会生活の向上，文化の創造と継承につながることを理解している。	
言語文化Ⅱ	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮		相手や状況，目的に応じて，文章の書き方を工夫することにより， 思いを感性豊かかつ効果的に 伝えることができる。	状況や目的に応じて，文章の読み方を工夫することにより，理解や解釈したことを踏まえて 批評し ，自分の考えを 広げ深める ことができる。
	知識及び技能の統合的な理解	側面①	我が国の言語文化に関わる言葉の様々な意味や働き，使い方等を身に付け，相手や状況，目的に応じて使うことにより，理解や思考，表現の質が高まることを理解している。	我が国の言語文化に関わる言葉の様々な意味や働き，使い方等を身に付け，状況や目的に応じて使うことにより，理解や思考，表現の質が高まることを理解している。
		側面②	幅広く多様な言葉に触れ蓄えながら我が国の言語文化のもつ意義や価値を深く捉えることが，自己の形成，社会生活の向上，文化の創造と継承につながることを理解している。	
文学と叙述	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮		相手や状況，目的に応じて， 思いをもとに言葉で豊かに創作 することができる。	状況や目的に応じて，文章の読み方を工夫することにより，理解や解釈したことを踏まえて 批評し ，自分の考えを 吟味し再考 することができる。
	知識及び技能の統合的な理解	側面①	創作に係る事柄に関する言葉の様々な意味や働き，使い方等を身に付け，相手や状況，目的に応じて使うことにより，理解や思考，表現の質が高まることを理解している。	創作に係る事柄に関する言葉の様々な意味や働き，使い方等を身に付け，状況や目的に応じて使うことにより，理解や思考，表現の質が高まることを理解している。
		側面②	幅広く多様な言葉に触れ蓄えながら我が国の言語文化のもつ意義や価値を深く捉えることが，自己の形成，社会生活の向上，文化の創造と継承につながることを理解している。	
古典と文化	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮			状況や目的に応じて，文章の読み方を工夫することにより，理解や解釈したことを踏まえて 古典の価値を見出し ，自分の考えを 広げ深める ことができる。
	知識及び技能の統合的な理解	側面①		我が国の伝統的な言語文化に関わる言葉の様々な意味や働き，使い方等を身に付け，状況や目的に応じて使うことにより，理解や思考，表現の質が高まることを理解している。
		側面②		幅広く多様な言葉に触れ蓄えながら我が国の言語文化のもつ意義や価値を深く捉えることが，自己の形成，社会生活の向上，文化の創造と継承につながることを理解している。

**外国語における
教科の目標、見方・考え方、
資質・能力の全体構造（案）**

教科の目標、見方・考え方（素案）

目標

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
小学校	外国語活動	ごく身近な事柄について、外国語で聞いたり話したりして自分の考えや気持ちなどを伝え合う力の素地を養う。	外国語によるコミュニケーションなどに興味・関心を持ち、粘り強く自分の考えや気持ちを伝えるとき、相手を理解しようとする態度を養う。
	外国語	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、身近な事柄について、聞いたり話したりするとともに、音声で十分に慣れ親しんだ外国語の語彙や基本的な表現を読んだり書いたりして、伝え合うことができる基礎的な力を養う。	外国語によるコミュニケーションなどに興味・関心を持ち、他者との対話・協働を通して考えを広げたり深めたりするとともに、自らの学習を調整して、他者との相互理解を図ろうとする態度を養う。
中学校	外国語の特徴やきまりを理解するとともに、これらの知識を実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けるようにする。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、様々な話題について、外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。	外国語によるコミュニケーションなどに興味・関心を持ち、他者との対話・協働を通して考えを広げたり深めたりするとともに、自らの学習を調整して、他者との相互理解を深めようとする態度を養う。
高等学校	外国語の特徴やきまりの理解を深めるとともに、これらの知識を実際のコミュニケーションにおいて適切に活用できる技能を身に付けるようにする。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、幅広い話題について、外国語で情報や考えなどを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。	外国語によるコミュニケーションなどに興味・関心を持ち、他者との対話・協働を通して考えを広げたり深めたりするとともに、自らの学習を調整して、他者との相互理解を深め、外国語の習得に継続して取り組もうとする態度を養う。

見方・考え方

- 外国語及び外国語によるコミュニケーションを文化の違いや社会及び相手との関わりに着目して捉え、多様な他者の考えを受け止めるとともに、表現等を工夫して自分の考えを伝え、相互理解を図ること

資質・能力の全体構造（素案）

小学校	外国語活動	思考力、判断力、表現力等	総合的な発揮	領域		内容項目例（第3学年相当）	内容項目例（第4学年相当）
			ごく身近な事柄について、 ・ 情報などを聞き、内容を捉えようとしている。 【理解する】 ・ 相手を意識しながら、自分の考えなどを話して伝えようとしている。 【表現する】 ・ 相手を意識しながら、自分の考えなどを伝え合おうとしている。 【伝え合う】	聞くこと	話題	相手のことや身の回りの物について	ごく身近な事柄について
					条件	ゆっくりはっきりと話されれば	
					できること	（ア）簡単な語句や基本的な表現を聞き取ろうとしている。	
				話すこと（やり取り）	話題	基本的なやり取りに関する事柄について 自分ことや身の回りの物について	自分や相手のこと及びごく身近な事柄について
					条件	簡単な語句や基本的な表現を用いて	
					できること	（ア）挨拶、感謝、指示をしたりそれらに応じたりしようとしている （※基本的なやり取りに関する事柄に対応） （イ）動作を交えながら、自分の考えや気持ちを伝え合おうとしている （※自分のことや身の回りの物に対応） （ウ）サポートを受けて、質問をしたり質問に答えたりしようとしている （※自分や相手のこと及びごく身近な事柄）	
				話すこと（発表）	話題	自分のことや身の回りの物について	ごく身近な事柄について
					条件	簡単な語句や基本的な表現を用いて	
					できること	（ア）人前で実物などを見せながら、話そうとしている	
		知識及び技能	統合的な理解	領域		内容項目例（第3学年相当）	内容項目例（第4学年相当）
			音声や基本的な表現に慣れ親しむことで、日本語と外国語の音声の違い等に気付くとともに、言語や文化の違いや共通点を体験的に理解している。	英語の特徴等に関する事項	ア 音声	英語の音声やリズムなどに慣れ親しむとともに、日本語との違いに気付く	
					イ 文字	文字の読み方が発音されるのを聞いた際に、どの文字であるかが分かる ・ 文字の名称を表す読み方を聞いて、大文字や小文字と結びつけられる ・ 身の回りの物を表す語句の発音を聞いて、何を指しているか分かる	
				文化に関する事項		・ 日本と外国との生活や習慣、行事などの違いを知り、多様な考え方があることに気付く ・ 異なる文化を持つ人々との交流などを体験し、文化等に関する理解を深める	

資質・能力の全体構造（素案）

外国語		総合的な発揮	領域		内容項目例（第5学年相当）	内容項目例（第6学年相当）
小学校 (1/2)	外国語 思考力、判断力、表現力等	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、身近な事柄について、 ・ 聞いて情報を整理し、音声で十分に慣れ親しんだ表現等の意味を考えながら読むことができる。 【理解する】 ・ 自分の考えなどを整理し、表現等を選んで相手に話して伝えるとともに、音声で十分に慣れ親しんだ表現等を用いて、書いて伝えることができる。 【表現する】 ・ 相手の考えなどを踏まえ、自分の考えなどを、表現等を選んで伝え合うことができる 【伝え合う】	聞くこと	話題	相手のことや身近な事柄について	
				条件	ゆっくりはっきりと話されれば	
				できること	(ア) 簡単な語句や基本的な表現を聞き取ることができる (イ) 具体的な情報を聞き取ることができる ※後半以降を想定 (ウ) 短い話の概要を捉えることができる	
			読むこと	話題	自分のことや相手のことについて 身近な事柄について ※後半以降を想定	
				条件	音声で十分に慣れ親しんだ上で	
				できること	(ア) 簡単な語句や基本的な表現を読んでその意味を捉えることができる (イ) 簡単な語句や基本的な表現から具体的な情報を読み取ることができる	
			話すこと (やり取り)	話題	基本的なやり取りに関する事柄について 自分のことや相手のこと及び身近な事柄について	
				条件	簡単な語句や基本的な表現を用いて	
				できること	(ア) 挨拶をしたり、指示や依頼に応じたりすることができる (※基本的なやり取りに関する事柄に対応) (イ) 自分の考えや気持ちなどを述べ合うことができる (※自分のことや相手のこと及び身近な事柄に対応) (ウ) その場で質問をしたり質問に答えたりして、伝え合うことができる (※自分のことや相手のこと及び身近な事柄に対応)	
			話すこと (発表)	話題	自分のことや身近な事柄について	
				条件	簡単な語句や基本的な表現を用いて	
				できること	(ア) 自分の考えや気持ちを話すことができる (イ) 自分の考えや気持ちを伝えようとする内容を整理した上で、話すことができる	
			書くこと	話題	自分のことや相手のことについて 身近な事柄について ※後半以降を想定	
				条件	音声で十分に慣れ親しんだ上で	
				できること	(ア) 自分の考えや気持ちなどを表す語句を選んで書き写すことができる (イ) 例となる語句や表現を参考に、自分の考えや気持ちなどを書くことができる	

資質・能力の全体構造（素案）

小学校 (2/2)	外国語	知識及び技能	統合的な理解	領域		内容項目例（第5学年相当）	内容項目例（第6学年相当）
			英語の特徴やきまりに関する知識を、コミュニケーションの中で組み合わせて使うことにより、英語による理解や表現の質が高まることを理解している。	英語の特徴等に関する事項	ア 音声	音声の特徴を理解し、読んだり話したりする際に活用できる。また、聞いたり話したりする際に、音声の特徴に気づき、活用できる・・・	
					イ 文字及び符号	英語の文字を識別し、その読み方を発音したり、大文字、小文字を書いたりできるようにすることができる。また、符号の使い方を理解し、読んだり書いたりする際に活用できる - 大文字や小文字の形を認識し、名称の読みができる - 音声と文字との関係に慣れ親しんだり、音声と語句や表現を結び付けたりすることができる - コミュニケーションを行うために文字を書くことを意識させ、文字の形や長さなどを理解して、丁寧に語句や表現を書き写すことができる - 終止符や疑問符、コンマなどの基本的な符号の使い方を理解することができる	
					ウ 語、連語及び慣用表現	語、連語及び慣用表現について、音声を中心に意味を理解し、聞いたり読んだり、話したり書いたりする際に活用できる・・・	
					エ 文及び文構造	日本語と英語の語順の違い等に気付くとともに、意味や使い方を理解して活用できる。なお、文を書き写す際には、語と語の区切りに注意して書き写すことができる - 文・・・ - 文構造・・・	

資質・能力の全体構造（素案）

中学校 (1/2)	外国語	思考力、判断力、表現力等	総合的な発揮	領域		内容項目例 (第1学年相当)	内容項目例 (第2学年相当)	内容項目例 (第3学年相当)
			コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、様々な話題について、 ・情報や考えなどを捉え、整理したり、既存の知識などと関連付けたりすることができる。【理解する】 ・情報や自分の考えなどを整理し、表現等を工夫して伝えることができる。【表現する】 ・相手の考えなどを受け止めながら、情報や自分の考えなどを整理し、表現等を工夫して伝え合うことができる。【伝え合う】		話題	日常的な話題について 身近な社会的な話題について ※後半以降を想定		
				聞くこと	条件	簡単な語句や文で、はっきりと話されれば		
					できること	(ア) 必要な情報を聞き取ることができる (イ) 概要を捉えることができる (ウ) 要点を捉えることができる		
				読むこと	条件	簡単な語句や文で書かれた		
					できること	(ア) 必要な情報を読み取ることができる (イ) 概要を捉えることができる (ウ) 要点を捉えることができる		
					話題	日常的な話題について（身近な話題について、（自分にとって）興味・関心のある話題について） 身近な社会的な話題について ※後半以降を想定		
					条件	簡単な語句や文を用いて		
				話すこと （やり取り）	できること	(ア) 自分の考えや気持ちなどを即興で伝え合うことができる（※身近な社会的な話題については対象としない） (イ) 事実や自分の考え、気持ちなどを整理し伝え合うことができる (ウ) 聞いたり読んだりしたことを基に、考えたことや感じたこと、その理由などを伝え合うことができる		
				話すこと （発表）		(ア) 自分の考えや気持ちなどを即興で話すことができる（※身近な社会的な話題については対象としない） (イ) 事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある内容を話すことができる (ウ) 聞いたり読んだりしたことを基に、考えたことや感じたこと、その理由などを話すことができる		
				書くこと		(ア) 情報や自分の考え、気持ちなどを文で書くことができる (イ) 事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある文章を書くことができる (ウ) 聞いたり読んだりしたことを基に、考えたことや感じたこと、その理由などを書くことができる		

資質・能力の全体構造（素案）

中学校 (2/2)	外国語	知識及び技能	統合的な理解	領域		内容項目例 (1 学年相当)	内容項目例 (第 2 学年相当)	内容項目例 (第 3 学年相当)
			英語の特徴やきまりに関する知識を、コミュニケーションの中で組み合わせて使うことにより、英語による理解や表現の質が高まることを理解している。	英語の特徴やきまりに関する事項	ア 音声	音声の特徴を理解し、読んだり話したりする際に活用できる。聞いて意味を捉える際に、音声の特徴についての知識を活用できる		
						...		
					イ 符号	符号の意味や使い方を理解し、読んだり書いたりする際に活用できる		
						...		
					ウ 語、連語及び慣用表現	語、連語及び慣用表現の意味や使い方を理解し、聞いたり読んだりする際に活用できる。頻度の高いものについては、話したり書いたりする際にも、活用できる		
						...		
					エ 文、文構造及び文法事項	文、文構造及び文法事項の意味や使い方を理解し、聞いたり読んだり、話したり書いたりする際に活用できる		
						- 文 ... - 文構造 ... - 文法事項 ...		

資質・能力の全体構造（素案）

		総合的な発揮	領域	内容項目例	
高等学校（1/2）	外国語	思考力、判断力、表現力等		話題	日常的な話題について 身近なものを含む社会的な話題について
			聞くこと	条件	話される速さや、使用される語句や文、情報量などにおいて、必要に応じて支援を活用すれば、対話や基本的な構成の叙述、説明、放送、意見などを聞いて、
				できること	（ア）話し手の意図を把握することができる（※日常的な話題に対応） （イ）概要や要点を目的に応じて捉えることができる（※身近なものを含む社会的な話題に対応）
			読むこと	条件	使用される語句や文、情報量などにおいて、必要に応じて支援を活用すれば、基本的な構成の叙述文、説明文、意見文などを読んで、
				できること	（ア）書き手の意図を把握することができる（※日常的な話題に対応） （イ）概要や要点を目的に応じて捉えることができる（※身近なものを含む社会的な話題に対応）
			話すこと（やり取り）	条件	使用する語句や文、対話の展開などにおいて、必要に応じて支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、
				できること	（ア）情報や自分の考え、気持ちなどを、即興で話して伝え合うやり取りを続けることができる（※日常的な話題に対応） （イ）聞いたり読んだりしたことを基に、情報や自分の考え、気持ちなどを整理し、内容のまとまりなどを意識しながら表現等を工夫して話して伝え合うやりとりができる
			話すこと（発表）	条件	使用する語句や文、事前の準備などにおいて、必要に応じて支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、
				できること	（ア）情報や自分の考え、気持ちなどを整理し、内容のまとまりなどを意識しながら表現等を工夫して話して伝えることができる （イ）聞いたり読んだりしたことを基に、情報や自分の考え、気持ちなどを整理し、内容のまとまりなどを意識しながら表現等を工夫して話して伝えることができる
			書くこと	条件	使用する語句や文、事前の準備などにおいて、必要に応じて支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて
				できること	（ア）情報や自分の考え、気持ちなどを整理し、内容のまとまりなどを意識しながら表現等を工夫して書いて伝えることができる （イ）聞いたり読んだりしたことを基に、情報や自分の考え、気持ちなどを整理し、内容のまとまりなどを意識しながら表現等を工夫して書いて伝えることができる

資質・能力の全体構造（素案）

高等学校 (2/2)	外国語	知識及び技能	統合的な理解	領域		
			英語の特徴やきまりに関する知識を、コミュニケーションの中で組み合わせることで、英語による理解や表現の質が高まることを理解している。	英語の特徴やきまりに関する事項	ア 音声	音声の特徴を理解し、読んだり話したりする際に活用できる。聞いて意味を捉える際に、音声の特徴についての知識を活用できる
						…
					イ 符号	符号の意味や使い方を理解し、読んだり書いたりする際に活用できる
						…
					ウ 語、連語及び慣用表現	語、連語及び慣用表現の意味や使い方を理解でき、聞いたり読んだりする際に活用できる。頻度の高いものについては、話したり書いたりする際にも活用できる
						…
					エ 文、文構造及び文法事項	文、文構造及び文法事項の意味や使い方を理解し、聞いたり読んだり、話したり書いたりする際に活用できる
						- 文 … - 文構造 … - 文法事項 …

資質・能力の全体構造（素案）

高等学校	外国語	思考力、判断力、表現力等	総合的な発揮	領域		
			コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、幅広い話題について、 ・情報や自分の考え、意見や主張などを整理し、構成や表現等を工夫して、伝えることができる。【表現する】 ・相手の考えなどを受け止めながら、情報や自分の考え、意見や主張などを、構成や表現等を工夫して伝え合うことができる。【伝え合う】	話すこと（やり取り）	話題	日常的な話題について 身近なものを含む社会的な話題について
					条件	使用する語句や文、対話の展開などにおいて、必要に応じて支援を活用すれば、多様な基本的な語句や文を用いて
					できること	（ア）情報や自分の考え、気持ちなどを即興で伝え合うやり取りが円滑に進むように方策を講じながら、会話を継続することができる（※日常的な話題に対応） （イ）やり取りを通して必要な情報を得ることができる（※日常的な話題に対応） （ウ）ディスカッションやディベートにおいて、聞いたり読んだりして得られた情報や考えなどを活用しながら、構成や表現等を工夫して、情報や意見、主張などを話して伝え合うことができる
				話すこと（発表）	条件	使用する語句や文、事前の準備などにおいて、必要に応じて支援を活用すれば、多様な基本的な語句や文を用いて
					できること	（ア）情報や自分の考え、気持ちなどを整理し、構成や表現等を工夫して話して伝えることができる（※日常的な話題に対応） （イ）スピーチやプレゼンテーションなどにおいて、聞いたり読んだりして得られたことを活用しながら、構成や表現等を工夫して、情報や自分の意見、主張などを話して伝えることができる
				書くこと	条件	使用する語句や文、事前の準備などにおいて、必要に応じて支援を活用すれば、多様な基本的な語句や文を用いて
					できること	（ア）オンライン上などで、情報や自分の考え、気持ちなどを書いて伝え合うやり取りを行うことができる（※日常的な話題に対応） （イ）情報や自分の考え、気持ちなどを整理し、構成や表現等を工夫して叙述文、説明文、意見文などを書いて伝えることができる （ウ）聞いたり読んだりして得られた情報や考えなどを活用しながら、構成や表現等を工夫して、叙述文、説明文、意見文などの形式で、情報や意見、主張などを書いて伝えることができる
			総合的な理解	領域		
		知識及び技能	英語の特徴やきまりに関する知識を、コミュニケーションの中で組み合わせて使うことにより、英語による理解や表現の質が高まることを理解している。	英語の特徴やきまりに関する事項	ア 音声	音声の特徴を理解し、話す際に活用できる …
					イ 符号	符号の意味や使い方を理解し、書く際に活用できる …
					ウ 語、連語及び慣用表現	語、連語及び慣用表現の意味や使い方を理解でき、話したり書いたりする際に活用できる …
					エ 文、文構造及び文法事項	文、文構造及び文法事項の意味や使い方を理解し、話したり書いたりする際に活用できる …
					オ 文章の構成、論理の展開及び表現	様々な論理の構成・展開及びそれらに応じた表現を理解し、話したり書いたりする際に活用できる …